

## 卷六目録

(○) 良傷霍亂の心得ア。同舟のモトア。體の冷るをひき、火氣湯をく温ムニ  
 ○ 乾霍亂のモトア。吐下もだ大畧(同)。一切の毒小あうた心得ア。砒霜石の毒モトタ(同)  
 るモトア。斑貓法アモシナウの妻の毒モトア。硝子あらもあうむの毒のモトア。吐酒石の毒のモトア(同)  
 ○ 瓜萬の妻のモトア。鳥頭附子の毒モトア。阿片曼陀羅花の毒のモトア。河豚魚の妻のモトア(同)  
 ○ 一切の魚毒のモトア。薑椒胡椒山椒と一切の菌蕈の毒モトア(同)。豆腐アモシナウ松草の毒を解ける  
 東ハ。蕎麥。粢。豆腐。麥。竹筍。芋。昆布。海帶。紫菜等の毒のモトア(同)。本暴多病  
 忽得ア。孫アマニ氣病(同)。死活の卷法ア。活モトア。圖(十)。きつけのモトア。孫もイカねの病の  
 モトア(同)。中風のモトア。中風のきさくはあらモトア(同)。卒中風のモトア。中風養生のモトア(同)  
 ぬけやまひのモトア。小そめにひがつける病のモトア。あはひのモトア。孙おひま病のモトア(同)  
 ○ 癪癪のモトア。癪證のモトア(七)。癪證驚風の類も胎毒モトア。多死モトア(三)。癪證のモト  
 ア(二)。狂氣のモトア。はやうちがこのモトア(廿五)。吐血のモトア(廿五)。脫肛のモトア(廿五)  
 プス白の蟲のモトア(廿六)。またアの蟲アリ驚風となるモトア(三)。痔の蟲のモトア(廿二)。船駕小醉モ  
 ツア(廿二)。咽の物のうへなるモトア(廿三)。犬小咬モトア(廿二)。同てあくの次第(廿五)。蛇小  
 咬モトア(廿六)。巣小咬モトア(廿六)。金瘡打身の心得ア。疵と燒酒小  
 ハアラムハアーナモトア(廿九)。金瘡水藥の傳(同)。卷木綿のあらモチの圖說(四十章)。血  
 や樂のモトア(四十)。打身アドのモトア(四十)。骨つだの秘事モトア(四十)。煩をうけるモトア(六十)。圖(平  
 肩の骨の傷モトア(五十)。打身のモトア(五十一)。乳の下へか殺モトア(五十五)





病家須知卷之六

傷食霍亂のあゝろえと説

微食滯カロキシヨタ。心下支結ムチカエたるもの。其支結たるもの、下降滯オチタヌや  
も食せぬシミツ。支結更日フカエイク不解者モノ。緩下カロキタヌを促モチ可。霍亂吐逆ヨシタシテギヤ  
たる後ナリ。大便不通ハラツウヒ。腹氣不和アレクナて。妨害ナシタシエビ。こヨキも緩下カロキタヌて可ホシ  
とアモ。さヨキども。凡スベ吐トキナされば。自利クダリもあるものアモば。下利ウツレか  
一ヒとアシテ。遽下アツハタスち不可。いよアシテく下利ウツレみアシテとアシテ知ミタく後アシテ駄藥タダニグサを行モチシルべよシ。

傷食ショクタイ。外邪エイニヤを合カズて發オル。多オホレ殊霍亂カヌメタジビ。必外邪ヨレアレありて發故オルユエ。小嘔ヒコス  
たる物モノの可否ヨレアレ。小拘ヨラ。腹痛ハラツキ。吐瀉モミスを催テ。下甚ヒエく。手足ハタチも冷ヒヒ。  
腹痛止ハラツキミサ。止シくべ。過小脣オシガ。過小脣オシガの左右サユウの天樞テンスウといふ穴キク。小灸キウを置シ。天テン

樞スカラハ。兩乳の間アツタをとす。ハアリ折アリ。そき丈アツタ八寸ハシナと見て。脅より右ユウへ二寸づゝ隔たるところアタリ。穴所アリ。おきを一寸五分ブ小コトナどるアリ。婦人フンナハ。肩胛骨間カタボクノアヒダをとり。ハアリ折アリ用アリべ。又脅上ホゾノウヘへ灸キウをるもよし。塗レホを填レホく灸キウをるあらば。熟艾アツエを以アリべ。塗熟アツモシ灸キウたらば換アリ。腹痛アライタミあるところアリ。何ドコもあれ。阿是オレシ灸キウをるもくるアリ。急卒サワソクの間アリ。小穴所トキを撰定カレントドクタんとアリ。醫者イレヤも來らアリ。遲延アリあること多けオホき。吐瀉ハラハラ甚シく。脉カクも微アリ小アリき。小アリ。迅速灼艾テバヤクキウをるが切要カシキ。透徹トホルべたところアリを認アリて。頻カレモトドクタ灸キウをべ。灸キウを禁アムところありといふも。平常ヘイゼイのことあり。灸キウ小アリ宜ヨロシらぬトコロ。ものアリ。周身ミツチコトコト禁キシム灸キウあらぬ所アリ。灸キウ一アリ可アリ。小アリハ。禁キシムび

此アリところもあらば。急遽キウの時トキ小アリあたす。あリ不守株カタクチの鍼科ハシキのいふ説コトバ小アリ從ツキ。後悔コウカイせぬやうアリ小アリるぶよし。霍亂カクランの病者ビヤクニンハ。體カコダの冷ヒユルを禁アム。衣衾イヘルヰみアリを厚被アツキセ。廁ヒツへ登アリまも。寒ヒユぬやうアリ小アリるぶよし。飲液ノミセも暖物アタカルを用アリべ。微温ナタルキ及ト生熟湯シラタマシナガル。嘔ハラハラ促モヨボスものアリ。熱湯ヨクを嫌アリのアリ。冷水アツスのアリよアリうけよアリきものアリ。裁配ミカラヒのアリあるところあれども。はづき太和湯ヨクスヒタルがよし。ゆゑ小藥アリあたてきふ。生薑湯レバカガ小アリも。霜糖湯サタケ小アリも。たゞの暖水アラキ小アリてを。多用アリべ。大オホクモチ小アリ。吐瀉ハラハラ後アフタ。腹力疲弱ハラノフカルものアリ。慢視シタもると死ぬアリ。手足アシ厥ヒュル冷ヒュルふも。附子アリを用アリることあり。灸キウも頻シキ小アリることあり。また浴巾アリを沸湯アリ小アリ清胸腹頭頸肩腰アタマカタコレまでもよく慰アシタ。速温暖アタカ小アリるや

う小を盈し。腹部を令温こと尤よ。頭を慰たらば。衣服を以て被覆て。風小中ノむべらば。まゝ熱湯を盤小盛。兩脚を没入。湯冷コラバ。更熱或加く。脛以下と令温ベ。萊菔葉を煎トたる湯を用て。益佳。鹽湯もまよ。嘔逆劇ものも。辛辣の極及粘稠泥滯やを除藥劑ハ。多服ベララ。熊膽などの至苦も禁ば。却く吐を促の患あり。故小吐のぬる者小。熊膽を用。吐ことあり。嘔不正ハ。食物一切無用。此も與キバ。更吐を促ひ。吐と小のまゝ下利。遂小ハ腹氣接續。死ぬるかもいた。尤之を禁ことあり。身體四肢厥冷ものを。速小催暖。發熱。吐下も止。やがて遍身小汗出るやう小なり。決一死ぬものなり。故小

熱微發たらば。速藥劑みりと。暖水。白飲。茶湯の類みりと。頻小喫せ。衣被を温覆。微も風の來往ぬやう小をベ。又乾霍亂と。吐も瀉もよく。苦痛甚く。心下痞堅。胸肋小衝逆。吸呼も今小絶んのとむら。躁擾悶亂とのあり。此證壯實者小多。もー老人小あきび。卒厥昏冒。世醫誤認。之を卒中風よりと稱治を失こと多。この吐瀉もしく。苦悶甚だものも。吐こと能孫ベ死ぬる故。小速吐せんと欲ども。鹽を招べき暇なく。藥鋪小越前糸蒂にて。越前より出る甜瓜の蒂あり。其莖を剪て。蒂をのぞと秤三四分も。細末小一々用とべ。遄小吐を促ひ。七日も末小一々舊よりたるへ効か。おども得ダ。さくば。蒼蠅の頭を二つもふりこ

卫捕爛沸湯小々服。苦瓠白穰もまゝ能吐一む。五七粒を細  
末小一々用。茶實もよし。或も人糞を覗殻小一ヶをのて喫一むる  
もよ。糞汁を瀝く。汁のみを用るなど。尤よ。この期小よりて  
劇者ハ。鹽湯ぐらひ小々も。不濟事あり。已小吐べに勢あらば。鳥  
翮小々も筆尖小々も。又ハ指をいきそりとも。咽裏を探く。吐  
碎用く。吐ヒ誘ことあり。或も巴豆の肥たるとの二粒許小胡桃  
などの類を擂和。其油を紐く。熱湯小滴沸服一むるも。吐下も。  
凡く巴豆只用て。吐下止らぬるふも。水を喫一め。止るもの有  
り。冷粥などもよ。吐劑の類も。冷水ふくら静。熱湯小々動あり。  
理會べきことハ。霍亂の吐下。小々苦憊のものも。捷疾。その身  
體を令温暖。自然小吐下もあるものぞと思。必く不胡做ふ  
よ。凡く此編小ハ。急卒の用小供んたも小。其梗概を述まで小  
々纖ハ説了ざること、慮べし。

卫捕爛沸湯小々服。苦瓠白穰もまゝ能吐一む。五七粒を細  
末小一々用。茶實もよし。或も人糞を覗殻小一ヶをのて喫一むる  
もよ。糞汁を瀝く。汁のみを用るなど。尤よ。この期小よりて  
劇者ハ。鹽湯ぐらひ小々も。不濟事あり。已小吐べに勢あらば。鳥  
翮小々も筆尖小々も。又ハ指をいきそりとも。咽裏を探く。吐  
碎用く。吐ヒ誘ことあり。或も巴豆の肥たるとの二粒許小胡桃  
などの類を擂和。其油を紐く。熱湯小滴沸服一むるも。吐下も。  
凡く巴豆只用て。吐下止らぬるふも。水を喫一め。止るもの有  
り。冷粥などもよ。吐劑の類も。冷水ふくら静。熱湯小々動あり。

一切の毒小中たることの心えととく

砒霜石の毒小中する。胸腹大小絞痛。咽喉より胸腹の間熱  
鐵を喫び如く。何とも形狀べたやうみき苦満をかげえ。吐んハガ  
をきども。吐こと能ば。下さんこ一くも下らば。或も自吐下オダキナキ  
もあり。面色青慘。頭熱脚冷。やがて不省入車小至ものあり。一應  
の藥も礬石の細末六七匁と水小拌て服しむるを可と。人尿  
及人糞汁も能其毒を解をさ。如この物効みに小へ非ざ。大凡  
一切の毒小中たるうち小も。此毒の猛烈こと。尋常毒藥の類  
小あらば。古より人致毒殺をる小も。多く此物を用ると聽す。今  
昌平の世タマツみれども。武家ムカシもぞふも。殊く此等の毒を解をべにこ

坐を知ざとば。不虞之患オモヘヌカクあたふ一もあらば。故ゆ今こ、小比類  
あき解毒の物モノを傳ん。記得コロニテ遺失ワスルことより。大凡一切の毒と  
解をる小も。油小優とのあること。毒小も百般ありといへ  
ども。其毒の害を爲大槻と比喩て説ば。鑽刀やうの物モノ以て刺  
蟬抓マリカキヤフ破ゴトク如きもの小て。鋭スレドるも直小死をいそ。鉈スサとのも苦  
痛せしむ。油の質も圓滑小一シル。能其類質を裏纏ヨクソウカヤギモノ。衝勢ヨミカヒを退せ  
しめば。故ゆ假令毒を喫たりとも。迅疾小油を服ハシメば死小至イタこと  
も決一ハシメくなハシメたり。又毒せらハシメたりと覺ナシふら。出是何の毒か  
ることを辨知ハシメべたか至ハシメざるも。遍油オホクメを多服カネズミば必解ハシメるあり。何  
の油オホクメとも撰ハシメところ小あらば。而もあふ懸燈燈籠の盞サラを傾カキマサ

ト健喫ベ。世小珊瑚よく毒を解。毒藥身小近けバ珠即破裂  
といふも大なる妄言アリ。信ベのらば。

狂貓葛上亭長の中毒不。腹中煥熱。小便淋瀝。陰莖内痛甚。血  
血と小便より通利。或も血を吐下し。龍腦樟腦よく其毒を解せ  
ると試マ効あるとみども。是また油と服小ヘ若ども。  
硝子安善那の類も。毒害を爲ものアリ。是まと油と用て。よく其  
毒を解モベ。

吐酒石といふも劇吐下劑也。害を爲とアリ。是まと油小々  
能其毒を解モス。

瓜蒂ハキタといふも吐藥也。苦味あるものアリ。世小ヘ吐モベニ證

ムラニをり吐一也。猥小悶一むることあり。或も妄小過用て。  
吐の止めたるおともアリ。瓜蒂を用。毒小中たるも。純粹麝  
香二三分も。細末小一也。服モバ。頓小解モ。味醬羹の冷たるものよ  
。寒水を服せたるも。は。効アリ。令粥も可。惣モ一切の毒の熟  
小會モ發寒を得て止モ。預記得也。

鳥頭附子の毒小中たるも。昏眩麻痺。其甚きも。脉微小。四肢厥  
冷もあり。速味醬羹の冷たるも。服モ。醸醋多服一也。も  
必解。油を油モ。効アリ。雖然如茲の藥物も。瞑眩一也。却モ偉効  
を奏ことあり。強小之代解モ。及ざるも。あ。漢土  
の昔。附子の細末を丸薬小一也。椒房の婦人代毒殺する例もあ

也。之と解るあとをも。はと知らんがあるべからば。方證相  
對。一。措。ごた。といふ。小ちあらばと知べ。

阿芙蓉の毒。中たる。初。酒。小醉。よる。が如く。居頃失氣。或  
も睡。覚。口。涎沫。胸腹。支憲。呼。ども應。おとす  
く。日。經。解。さ。機。轉。遂。小斷。必死。小至。迅疾。麝香。龍腦  
を多服。多服。精薑。もま。驗。あきども。苦。不堪。喫。不ど。小  
濃煎。ト。た。多服。細末。小。頻服。む。小。あら。孙。其。功  
ある。あと。故。小劇。もの。そきら。よ。も。嚴醋。多用。と。る。グ。  
捷徑。て。効。あり。頭面。頗。小。瀧。よ。若。迫。甚。之。の。吐。一  
め。後。小。醋。用。べ。大。允。醋。ハ。一切。曼陀羅花。烏頭。附子。阿片。等

の。蒙汗藥。の。毒。解。も。小殊。効。あり。砂糖。も。効。あり。といへり。又  
灌水。小。一切。解毒。の。効。ある。こと。も。予。既濟。微言。中。小。辯。析。を  
見。知。べ。今。世。小。用。る。ところ。帝隸夜訶。一粒。金丹。調。痢丸。金  
匱。救命丸。などの。類。小。此。物。配。合。と。用。く。其。毒。中。る。も。  
此。法。用。く。解。を。ゑ。近。時。紅夷。の。醫。流行。と。より。俗。醫。輕。舉。小  
阿片。の。類。誤。用。る。後。患。成。釀。し。或。も。痘瘡。など。小。妄。投。立。地。に  
其。害。成。見。また。睡。覚。ざ。る。ま。小。遂。小。死。ぬ。る。もの。あり。よく  
く。理。會。て。被。害。ること。み。る。べ。

河豚魚。の。毒。中。た。る。煮。魚。煎。服。能。解。と。燒。その。煙。と  
口鼻。小。薰。も。よ。甚。た。る。吐。劑。ま。よ。人糞。汁。用。べ。糞。汁。尤。其

毒と解を油も又効あり。辛辣脣竈藥。腦麝の配合たる品決一用べらば。大害あり。

一切の魚毒を解せるふも。鹿角菜煎、トモ服べ。 辣茄胡椒。蜀椒及一切菌草の毒ふ中ぐるも。鹿角菜よ。甚者へ人糞汁と用ふ。人乳牛乳の類も効ありといへ。油もまた可。菌草の類其質をも辨知む。猥小喫べらば。頓小毒ふ中て斃ものあり。我邦の僧支那小在く。異菌を喫く。其毒小中たまへ。傍客も皆糞汁と服く治へ。吾も死とも身を穢さざといひそ。そのまゝ悶亂して死するおとあり。此僧の愚ふることも笑ふ。たゞども我邦人の膽力あることまゝ思べ。

松蕈マツタケを。菽乳トウフと併イツレニ食べ。醉ことよきも。菽乳よく松蕈の毒を解けせばあり。

蕎麥ワサバと喫く。毒ドクあ中たれを解せるあとも。第二の巻蕎麥の條小いふが如く。海帶よく其毒を消といふものあれど。予ハ未試。

染豆腐。太麥。小麥の類も。萊菔汁よくおきを解せ。

竹筍。芋タケノコの毒ドク。生薑汁シカクガクを用べ。

昆布。海帶。紫菜の類。嚴醋ヨキスと服べ。

此編小舉るところ。蒙汗藥の外。其毒小輕重あるが故小用ヒテ。ころの藥もまた差等ありといへども。其毒となる小於くも。大異ある小あらゆ。前後参考。其理を明め。又前の飲食の條

と通覽す辨へたあとあり。

卒暴なる病のあら得とてく

**沈睡病**。故もよく一々偶熟睡。いの小喚起などを覺がたく。依違漸死る病あり。させる苦痛もなく。快熟やうのみの生べ。慢視一々治術の及ぬやうとなるより。前夜達晨寝ざるとあるうちあらぞ。正小是病あるとを知べ。疾搖醒。頻小呼覺。怕痒ふごしてくる爲し。萬方とも昏睡覺がたく。言動もあたそのも。百會と肩井と大椎骨の兩旁を夾々灸。鼻へ紙條をふりく挿て見るべし。噴嚏藥を用ひ嚏をさること尤妙。倉卒小用べに舌交小へ。胡椒の末。蔊菜。煙草氣烈品。何小ても其時小臨て細末し。

竹管を以て鼻中へふりく挿す。息小任て噴み。函嶺かくさめぐさといふものを生む。土人よくお此れ知り。他國小も硫黃の多き温泉ある山小も産むといへり。預採かにく蓄へ。此物舌交小用ひ効あるものあり。其佗も皂角。細辛。良薑の類も用べし。如此一ても猶覺じべつ過精煉たる醫人を招べし。さきども。おの病の怖べた證あるを知ざる醫みらも。容易小量の藥も用ひた。却く害とかることあり。故小請くる醫師小其見ちくも速小打手と請く參謀をべし。死活拳術小く効あるとのなし。肩を探く見せば。深凝結たるものあり。それを力成用ひ猝挫やう小をせば。頭中まづ徹て痛が故小。病者聲を發べし。その時手を放ば



一切卒厥昏沈の病小おの法  
用ひ及その意を擴充く活用べー

沈睡甚しきことと  
脊髄うちく醒まとある  
よく本文を讀得  
その旨發こゝろづ金丸とより

頻小猝たるま、小肩の塊を背後へぐすくと轉やう小數次爲ベし。卧たるは、爲も可けども力耐がたけどべ。抱起く病者の背を己胸へあく。のり體の動搖ぬやうふし。たゞ肩ばの手を捏轉やう小をるおとあり。其後病者の體を乞の胸腹へ摶住。肩よて胸肋を心下のうたへ。指尖と反し。掌小力を用ひ重按て。肋骨の中へ凹やう小をべし。其手直小腹部へ下く。心下より腹の兩旁と定心小按下し。其後脅下へ左右掌を抵當うんせいいひそ提起やう小してさてその後小背の七八椎の邊を強小叩み。おきを叩小ち。四指を屈て。掌中を空虚小し。背椎骨を避く。屈たる四指を掌後ことを將て。背椎を兩方より挾やう小

く骨小沿く力を極く下ののへ叩さぐるあり。髪あるものも。  
髪を拿て提ひがら叩もよし。剃髪のものも。手巾を腮より頭へ  
絡く結たるを。左の手小拿て。擣舉て叩ひ正ぞの後肩より背槌  
兩脇の邊を探て凝塊するものあらば。指頭小力を作て按摩く  
よし。肩を轉回す後。左の乳下と叩法もあひども。一誤く打失  
ぞせば氣息頓小絶ふ故小吸呼も脉も絶する小あらねば。妄施  
ぬおとあり。此術爲得がたくも。唯肩より頭項腹背四支をうそ  
るぐ摩擦や手を放ば。微も體軀裏小塊あるところは力を爲く  
捏捺べし。如此の術。倅卒小へ施得がたなが如くひととも。名券  
家もかく。抵對ベシ。醫師もあらざると見小も。依違うち小死ぬ

るものみとべ。有志者も常小記得。不虞の變を救おとある也  
1. 内股劑も。世間小きつけと稱る。蘿合香圓。延齡丹。あごの類も  
不可。また金匱救命丸。一粒金丹あご。此病小用せば。大いに害あり。  
決して禁ぜ。龍腦麝香などへ用ることあり。麝香を融解小  
ち。酌酒を用ふ。偽造あらぬ品を擇。一次小四五分も用ぎせば。  
効あるもとなし。焯菜が効あるとのみれば。汁或紐多腹べし。  
白芥子末を煎じたるも。熱湯小拌和く行ふもよし。漏血止とも  
あせども。證小よアヤ効あるとのなり。おき小を反そ。累日睡ざ  
るものを。狂癇小ふる徵されば。是はく恬視小ならぬ證小。速  
睡せるやうにせべれおとなせども。の催眠藥といふものも。

用る程量の至嚴なる物乎。若誤き人を害也。故小爛熟たる  
醫士小非べ。行ふたり。法よ。悟小もあらば。寐かもあらば。數日と  
歴ものあり。おきまゝ懼べに證あり。過精神の奕慧小あるやう  
にモベ。沈睡者と其治法畧同おとなり。機活の治法も。予々既  
濟微言。水療俗辯等の書小参考べ。

癆病

卒癆も。修忽小發ものあり。細心戒用。其幾も自知

るあとあるべし。故小老人など最留意べたあたり。その幾微  
といふも。上衝眩運昏沉頭痛耳鳴肩強等の證競起。及肋骨脹起。  
胸脇下小支結あるあとを知。舌癆く語言遲澁。食時小粒飯の口  
より洩出と覺む。又ハ口裏小在くやふく洩出るとの頭汗出。體

軀をべて氣逆。手足麻痺。法よ。微冷。或ハたゞ久坐たるにたり。  
頸小起步ぶたく。或ハ箸。若ハ筆を執小手戰。法よ。字を寫んと  
一々。不意指尖の唐突との。或ち渴睡。寝のぬる。又。惡夢と  
見て。睡。見ても安らざるあとある。或ち喜忘。事小倦やと。頸  
小矢。あるひも悲傷欲哭。法よ。頸小瞋沮或ち笑ひ止がく  
く。或ハ劇に下劑を服くも。腹痛微小。思不ど小ち。大使の通  
利みたる。如。此の證。二三あらば。此病の發幾から非くと。心を留  
て躬察。實か之を知あとあらむ。速人事を廢く。思慮を省。飽食  
飲酒を戒慎。勤て其體軀体運動。房欲を退。交藥との宜小適て。  
之を御べ。殊卒癆の初發。停食過酒より由者多けきべ。飲食

の攝護尤緊要あり。卒癰發昏倒也。必鼾息あり。吸呼不利。痰  
涎壅盛なり。不然も此病小非と知べ。其咽喉壅盛たる痰涎  
も速吐出むるやうふをべし。痰涎壅盛たるまゝ小泥滯やヒ  
ヒ煎藥。蜂蜜小々調する劑及丸藥みど或多服むせば。咽喉  
忽小閉塞。直小命の絶るふとあるなせば。此用意小々猥小難  
藥を行ひむ。乍ららべ。腹部四支へ妄小灸をべららべ。鍼ハ非所  
禁。肩強者ハ肩を刺す血を瀉あともあり。疾舌交行て。嚏を爲  
ベ。一切沈睡病の所措を異おと無きども。停食より來もの。  
速其停食と吐く。効あり。肩井より肩胛の遍及。左の方乳の  
後ゆ中たる背部必強急ヒのニセバ。手を放げ力を須て磨擦て

應るやうふを乞し。此病も諸藏を上部へ牽引す。心下鞭滿を以  
テ。病の原因も頭中小在る。故小之と胸腹の患を思ふとある  
也。然と腹部の苦憊のみ拘ら。淺見なり。故ふ其證小從す。頭を  
罨慰。或ち寒水沃ふ。利おともあり。又ハ頂の正中螺旋髮の前後  
へ頻小啜み。利おともあり。又ハ項の正中螺旋髮の前後  
左右項の髮際。肩井大椎の兩旁骨を夾く。灸をふあともあり。已  
のく小頭中の閉塞たるところが通称べ。胜じ。腹氣も下降ぬか  
ず。故小專小そ色治をることを要をもせども。其虛乏より來  
その。實塞より發との事。治術の差別は。天地懸隔也とみる  
べ。筆古小も説鑿。のたにあと多とい。故小俗家小も罨慰瀉血灼

又。内服劑。これを。齧齧治法を施んよりも。委置く自然小任たる。此も。却て得利あり。是と以て。此編から。凡て治術の法と詳説べ。たゞ何の證小もあらず。その肩より脊の五七椎の骨と。左の方へ三指横徑をうす隔て。脊部。卷四生児の聲を發さる者と揉む。おろ小も所謂。五七椎の二行ど下り及。股膝の内外小。平常の人。の按。も。痛と覺る所あり。とせ威力と極て按摩。大益を得出。とあせば。必強く行へ。虚實とも。大便の秘をも。不可ば。病發一日。或過度も通利あく。下劑を用ふる。穀道の灌藥を施す。又。ち蜜煎。峰蜜五六勺許。小。芭硝一錢許を加く。漫火上小煎て。膠飴のおとく小のみたるを捻く。大も長も指下ごとく。頭尾

と。毛小殺。深く肛門へ夾あり。或も芬吹の頭を去く。油を口。小含。その吸管と肛門へ内息と極て噴こむを。蜜を以る小。芭硝の鹿末二三錢許。小蜜五六勺と水一合許を和。火上小沸く。後噴いとてよ。又。小児の弄具小竹みて造る。唧筒あり。其口。拭木賊やうの物小。磨て。おとく射入るなど尤よ。其口。小煙吹の吸管と接換たるなども。ぬく可べ。小便遺失するも。難治とをきどと。其中小まよ治るとともあせば。決一。不治。これら断がたし。卒癰醒悟。後小多。手足の左右偏小不遂。小鳥。ものあり。手足がうすと思ふとある。頭面腹背小も。其手涉ある。あとあり。又。凡て癰の患者へ。温煖小。遍體小汗といふ。不

ご小あらざ。常小滋潤あるを良とひ。大小汗毛るも決して禁べ  
し。手足の冷るも喜のらば。をも。小とも行歩のみるあらば。  
杖小枝てねりと。旁より扶持ありと。と全く散歩せく。身體の  
運動やうにモベし。凡々飲食の消化第一義なり。往時より此病  
を。外邪のやう小説ごも。ヒヨモ差謬小也。悉皆内因の病小て。多  
ち攝生あへ死者小發。壯歲小て患も。癰毒もあリ。癰毒より發れ  
のと。内損などより來とのと。同治術を施スヘ。大小徑庭をるか  
故。多々廢瘡不治がある。壯者の癰毒より原る癰病。十が八  
九も必治モベ。卒倒たる時よりして。其治術小懸隔あるあと  
を。俗家小もよく知ベたあとあり。凡々疾の同證小とも十人十  
人

異のとの小にて。一槩小も領がたれあとあり。嘗て肥前瘡忽小  
愈く。那病小あるとのと施治たり。手足の不遂や、  
治一たり。中思あろより。肥前瘡再發し。速小復素たるあとあ  
リ。又一人陰癬小貽藥を一々治したる。卒小變トく癰病。さ  
りたまへを知。其治法を施シ。陰癬舊のこりて發し。那  
ち全愈たるものあり。然へ。一切其病因の同異をよく辨別既往セ  
入みどの内因より此病を發する體状。劈痕ある磁器小比也。病  
でハ本小復し。がごと。然めとみど。磁器も其破壘  
を補接し。再用小供ベけ。一向小治せどと定べた小もあ

らば。世間舉々。癱病小灸と專小をると。あきどを無益の手足ある。伏亂灼よりも。脊骨を夾たれ。一ご灸といふなとがよし。と。きち脊椎骨の凹。と。あろ伏夾。と。左右を逐次小上より灼艾。と。其頭項脇背腹腰手足。指頭小至溝。日々怠じ按摩して。大小効ある。とのあり。緩癥の病。内藏小させる困苦。みた者へ。強く薬を用。る。か。よべど。只其飲食を節し。心意と舒暢。小。導引と專小行ひ。偉効を見。あとあり。其導引の法も。身體の凝結たる。と。おろとよく探得。と。按摩を。う。佳け。と。手の不遂。大椎肩胛の間。脚ハ腰の髄骨の邊。と。指尖小く探て。そせば。指頭小應。と。知る。とのあり。尋常の導引家も。益々。だれと。あと。父祖の病ある。

其見孫よく。自得て己を鳥へ。累旬解怠じ。按摩を。廢。癱不治の證。みりとも。苦惱を減むる。小裨益。あるあと。みり。世小長命痛といふ類も。癱か近ぬ病か。肩の關節の間。小塊ある。ものあり。ヒエ代按摩て。得利。癱病。小苦薏花。小茴香。樟腦。などの類。と。布袋小盛。水煎。一雨沸。体のま、紐。大椎。肩背。腰。髄の邊を慰。或。ロ。蓖。弱。一枝を。兩小切。湯中。小煮。布小裹。乘熱慰。て可あり。白芥子。末を。布小裹。沸湯。小紐。と。罨慰。も効ある。ものあり。醫方小熨劑。ハ。數種。あきども。俗家の用。る。から。先。ら可あり。凡。その用意。ハ。此病の荏苒。ものハ。妄。みる。治術。と施。可。益の藥劑。と内服。んよりも。攝養を。第一。小。灼艾罨慰。ふど。と專

小一。外治のみ戒旨といたるがよ。鮮食小ち。蔊菜。白芥子。生薑。辣茄。蜀椒。胡椒。葱白。薤白。大麥。赤小豆。鮮魚の羹汁。味醬汁。及鷄蟹。野鴨。かごの肉を除て羹汁のミ代をりく喫たるものよ。白芥子。蔊菜の類尤効あるより。食事小酌酒を徹喫しめ可ものあれども。強々爲べれあと小あらび。禁マ酒ハ不中用病あること。よく領マ識ベ。一切消化あへた品。塗餅。脯鹽藏肉。かど決々食べらば。食量も常の半を減たるが可。凡々消化を要とする病なるが故。小大麥。赤小豆。代不欲食者も。陳稟米。日小二合許を限とめてよ。飽食。胃中壅塞。とれ。再卒厥。治。とべらば。畏慎べきあとある。其佗此病。小於て諭示。とれあとあるも。既

濟微言。及水療俗辭等の書。小詳説。たゞ。宜併考べ。

**僵厥病**。何の故もあくて。卒小僵。身體の運動止。息眼も開たるぬ。小々。視らと思。どを辨知。あぐ。口も動せども。言語。あと。く。名。或呼。ども應。あと。多く。旁より手足を舉せば。舉たるま、小て動じ。さくも死たる。や。思ば。吸呼の出納もありて。さくも苦悶と。あろも見えば。此證。もあはり。小懊熱。あと。みどあり。後發をること。多。まづ。古交。を以。嘆。をさせ。身體。と。捏摩。あと。前の沈睡病。小説。の如。を。べ。灸。も。項。身。柱。肩。井。あたりがよ。衣被を粉少許。を。加。く。白酒。小々。和たる。代。大椎。身。柱。の部。へ。頗。小多貼て。

よ。灌水小々効ある病をども。その消息へ。水療俗辨小於詳小をなし。凍く發おともある病をば凍死たりを見ゆる者小ヒ。此用心あるべれあり。

昏冒スカラシキへ毒氣小觸フルるあとある。はたへ身體の運輸失常あとある。小々倏忽タナマナ小鬱冒失氣リスカフクシナあり。此證初コロモナ精神コロモナふ小とみく乏弱フソクをるやう小。自己オモハ小も思アモハ。頭中安靜アモハシタマハあらじ。やのく機轉シケンを失リバシタ。汗出ヒヤツイテ。脉微弱マツカカス小かり。手足冷ヒヤシあり。其病因多端ソヤリモトサマシあるが故カゼ。小冷ヒヤシタマハ方カタも亦異マタカチ。雖イマまづ頭面小寒ヒヤシタマハ水ミネハシタマハを濶嚴醋マホケキワキスと器中レモヒウチ一小振搗アモハシタマハ嗅ハシタマハいむる。煅スルハたる瓦石タフスと醋裏マホナタマ小投トシ。煙氣ケブリと嗅ハラハラもる。或アヒ口鼻ヒナシへ濶マホハシタマハう服マツハシタマハむる。鼻中ハナシタマハへ噴ブツシタマハる。肩カタを探マツカシタマハ凝塊マコロモナわら

を。採モテよ。下血崩漏及刺ツケく血カケを漏リテると過多スギレより發オカルるもの。其頭面カホへ水シダを頻レキか噴ブツシタマハうけ。後アヒか其身體ソノカラダへも。衣被キルモを厚覆アタキセ。温煖アタガなら。—むベ。下血崩漏の類カヌダキも速カタマリその血カケ止メテると。尤アリ却要アマリ至ムカシタマハ崩漏ボウロウと止メタマリる。前マヘの婦人フジンの部トキを詳説アマリコロカヒたるを看ベ。はゞ。暴怒驚駭カヌラキ熬氣ヨラギ。氣閼ヨラギ或モハヨロモナり喜躍等オコロモノ小々發者オカルモノへ。却タマて血カケを漏リテる。或アヒ千氣過度アマリコロカヒ一々發トコるもの。また千氣過度アマリコロカヒ一々發トコのもの。あへを正氣酒セタニカなどの類ルヰを嚥スルるもの。其ルヰから放血チャトムをあ。又夏秋焦熱コロの時アグハ中督フルヰド井フルヰドなどの鬱氣コロガキ小觸フルて發ツルとのへ。頭上アツマより遍體サツシへ水シダを頻レキ小灌スミカハシタマハて速效シレと得出アヒとあり。醋マツを用ムるあともかうト。香竈ヤクシキの藥氣ヤクシキ小觸コロや發ツルもの。人乳ヒトノチを服マツ一めく効カタマリあり。前の中毒マヒを治メテる意コリ

ヒ輸ヒヨシ。醋ヒ用ヒルヒトモマヒヨシ。酒ヒ醉ヒ發ヒモノ。頭ヒ上  
ヨリ寒水或大ヒ小灌。醋ヒ嚙ヒメ。鼻中ヒモ噴。またも舌炎ヒ施テ  
ヨシ。甚だも井側ヘ將來體ヒノリ。頭頂ヒより水ヒ大ヒ小灌。其  
後衣被ヒ厚ヒ高枕小臥。ノリマニ効。アタマヒキウケオリ。昏冒發ヒ時ヒ過モノ。  
經脉ヒ運動漸ヒ歇止。遂小ち死ヒ至。故ヒ過小治ヒ施。非  
ハ救得。得ヒタヒ證。アモベ。依違時ヒ失。ソニテ。述  
ヒコロの治術。撰ヒ行ベ。藥劑。揮發。脊竈。の。麝香。龍腦。の類。  
又。薦菜汁。白芥子。末ヒ。沸湯。小泡。ノリ。ス。可。白酒  
モ多服。ノリ。ヒキウケ。ヒヨウマ。効。ノリ。一粒。金丹。金匱。救命丸。の類。此病。少  
大害。アリ。昏冒の證。前。の。僵厥病。と混ト易。ノ。其類。ヒ同。ノ。治術

小徑庭ある。あと。あ。俗家。小。も。詳辨。ス。沈思認得。ベヒ。あと  
ア。

**眩運**。卒小發。あと。留飲。も。癰疝。も。衄血。痔血。など。頸。小止。た。る  
よりも。卒癱。の。漸。小。ノ。發。ヒ。藏躁。またも停食。より。來。も。アリ。其他。  
痘疹。癪毒。及。胸腹。擎急。等。の。病因。また。何。小。く。も。毒氣。の。頭部。へ。上  
衝。ヒ。又。も。太陽光線。の。眼中。を。射。ヒ。此證。ヒ。發。も。ア。モ。一定  
ノ。お。た。し。卒小發。ヒ。も。怖。べ。ヒ。小。ち。あ。ら。孙。ど。も。只。用心。べ。ヒ。其  
初。病。前。頃。より。ヒ。る。う。や。思。ヒ。の。れ。大。故。み。け。ヒ。ど。も。後。頭。モ。漸  
て。や。が。く。眩運。ヒ。爲。ヒ。知。る。も。決。レ。ヒ。忽。視。ヒ。ベ。ラ。ビ。率。迫。の。寢  
證。發。ヒ。死。ぬ。る。あと。ア。耳鳴。ヒ。より。眩運。ヒ。る。も。眩運。ア。リ。く

後發たる癥も。治しのねるが多。尋常の眩運小へ。寒水と喫く。即効あるとのあり。眩運卒倒たるへ。前の沈睡病の導引不從可。

### 睡魘病

とく。夢中小怪れ鬼神の形像物怪と見。魘るとの甚く。聲と揚々喚叫小。旁人も驚駭さる、おとあり。如此者ハ。必仰小卧て。頭中の位置あしくみるが故小發る證多け。速喚覺え。右と下小。手と身小副て。側卧小爲べ。然ば多ハ從て快熟。之のより。無病者。みどく。魘るも妨碍か。おとむども。瘡癖みどある人の數。此證發へ。忽棄みらぬ。おともあり。水腫癰病。勞瘵みどの患者小。此證ある。凶徵と顧慮べ。此證停食より。

食おともあ。ハ。七せらへ自省べ。又現小異態の物の枕邊小在伏見。或も鬼魅怪獸の類小惱さる、とく。畏怖とのあり。決して之と鬼神罔魘の所爲み。と思惑おとある。如此等皆癪疾。小。精神の患ある。初卷小述たる。身息心伏調。法と以て。之と鎮とべ。治せざる者あるおと。或も睡。する間よ。ふと起。山戸を闇々奔出。或も常小へ登えさる。屋背木抄。或も陷危地へ。小の戰色もふく陟。のあり。是も夢小見。おと。起。爲の。小。奇む。在おとにあらば。故小其人覺ぬとべ。自己も大。小怖。此夢顛病也。大小呵責批懲。疾悟。もと。事故みたも。のなきども。如此類も悉精神の穏靜ぬ者にあるおとて。平常小

教誠。其心と和調小あるやうにとせば。發おとみた證かせば。  
偏小こと伏病とのみち稱かたれを。世小熟寐と。頻小凶夢  
と現る生質小く。寢覺といふとのあせども。蟄也熟寐ると  
いふ小ちあらば。真小熟寐ても夢へ見ぬ分より。はと見内夢證  
の。蚊蟲ありて發もあとむ。是もよと記得べにあとあり。

**癲癇**の。癇とも間の字小从ノ。神氣と病の爲小間隔らるゝとい  
ふ義小とくとみをば。一切の癇と名づくるものも悉皆精神小  
關係る病なるあとも明白あるを。古よりうる字義とも謬解  
たる小より。醫者も其病因を知ざるもの多し。昏冒。眩運。彊厥。沈  
睡。不寐。睡魔。夢覺。婦人藏躁。子藏諸病の類も。皆癇なり。其佗鬱悒

敗意。蘊憤。掉悔。懊熱。星慮。亦亦瘤み。怔忡。驚悸。上衝頭痛。耳鳴等  
の病も。十が六七も癇より發る。癰疾も亦癇と相遠うらぬとの  
あるおぞも。癇より變トマ癰とかり。癰中小癇を發したるふど。  
俗に病多アといひしる。よ凡裁量ともいふ俗たより。今世人の  
現にさ一々癇と名づくるものも。精神平常とへ異小一々。諸般  
の運爲悉常度と差癰。呆小なり。怜惻小あり。暴怒。奢肆。喜笑。鬱悒  
甚き小至。多く狂躁。またも。井小投。自裁。もとの類。其證千態萬狀。  
縷舉がた。其中小身體卒小。擊急。搐掣。口鼻より白沫を流。怪  
聲と發て叫喚。水火小投とも自覺。大小便遺失をるみどの證

かどあるものを。名々癲癇といふ。癲とハ顛の字小て。病卒小發  
昏倒をいふ。實小不意小發る病也。病の爲小高より墮水  
小溺死ぬる。身體を損傷て。思ぬ厄難小會おとあせば。預其  
病の將發を知せんべある。従うらば此證不計小發。如と雖其  
以前小ち。心意が小とろく。爽快せど沈默と一。手樂ば。眼光異常  
睡が如小一。睡えべ。欠け。嚏一。口中小臭氣を發。身體沈重或  
ち脳運をも。耳鳴も。頭痛をも。あり。此證發る時定うけども。  
自己へもとより旁人も。今此小載ると。おろの證とよく記得て。  
不慮の變を御べ。病發三年代過るとの小あらば。多ひ治ま  
べ。處女小此病あるも。治を加げども。天癸至ころ。自然小愈も

りあり。凡て此證も鬱毒より來るもの多ければ。瘡瘍瘻瘍の類。或  
たも。癰瘍等を恙中。小發一。又。勢と排托べ。勢より速小平  
治とのあきびなり。小児の驚瘍も。此類多き。然も。癲瘍との區別  
も。搐搦甚け。或死小至る。癲瘍ハ。病發とも。自然小故小復し。之  
が爲小死ぬるもの少々。小児の驚瘍も。其初多ハ吐乳より漸  
あと。小児の條下。小説。がおと。綜凡如茲の病の考妣の遺毒よ  
り。由父母癲瘍を患。其子も亦癲瘍を病。父母癲瘍あり。其子  
も亦癲瘍を發するもの。全治。びたれの。癲瘍小限。べ。惣  
そ癲瘍ある。この。小。垂鈎などさせ。利あともあり。一臺。ふ。勞瘵  
の病人。小。垂鈎を。も。効を得。と。おともあせき。又。も。瘍疾

勞療かどを患るものの、機を轉く一向小神佛いちで小一々。驗  
おともあり。凡その、疾病を服藥のみ小さ愈さんと思ひ。海と  
俗見小々必く老臉皮小病の條理とも辨知。治驗を經たる  
おともみに藥を多銜んが爲小口小任々人と購し。それと職業  
と思ふ賤工の所爲小惑さる、おとみある在しはと懃々痼證  
の病者の居室も常小潔淨爽涼やう小一々眼小々嫩綠草木花  
果の鮮麗とのを見。衣服臥褥も汚垢たる物のみやう小一々飲  
食も切小減損す。たゞ消化やを品を擇び。蔊菜苔子紫莧など  
の類。一切芬馥あるもの然斷じ喫へぬ。間ち。蜜柑杏橙梨葡萄西  
瓜等の類と歩づ、うへるぐ喫へめたるがよし。とべく粘稠あ

るとの芋飴小麦粉など肥膩膏梁品類を禁。魚肉の新鮮もの些  
少づ、撰用するもよし。とべく健喫せむ。然らば房車も大い小  
あく。酒も必後害あり。はた癪證小灌水の効あれも。予が常小  
試く知ところみども。其種別と此小説んとをきば頗煩重小  
涉故か。別に水療俗辨の書と著く。俗家小示ひ。はた蛻蟲あり  
て癪を發をるものも。直小蛻蟲を治すと効あり。此蟲の形を蚯  
蚓のやう小リ。色白し。鷄胡菜湯といふ藥あとを連服之と下  
く得利。俗家小もほと記得べ。

狂瘡の病因も各種あり。雖其躁擾児猛者へ。叶下劑とも小。他  
の病者の抵當小く。効みに病されども。其中至く平淡ある藥

劑アラス小々アラス即ソノカク効アラスを見アラスたのあす。その區別ヒヤツバツといふ解説アラスとも。俗人アラス少アラスち了解アラスがたきあとあきべ。詳アラス小アラス記さアラスべ。此病アラス十アラス七八アラスも灌水アラス及アラス瀑布泉アラス小アラス愈アラスるヒアラスの多アラス。セアラスも尋常アラスの事アラス小アラス効アラスぬけアラスげ。多灌アラスるおとなり。シアラス志アラスせんアラスとアラスへ。姑息アラス之慈愛アラスを他アラス小アラス。治術アラスを行ベアラス。旁アラスより延纏アラス妨アラス拒アラスとのあれば之アラスを治アラスむ大アラスとアラス。知アラスたる醫者アラスも如意アラス小術アラスを施アラスぶたれど之アラスを治アラスむ必アラス疑惑アラスもとアラス。巧手アラス小アラス果斷アラスとアラスおろの醫士アラス小アラス一任アラスをアラスたかアラスて。輕證アラスも慰諭アラス告誠アラスや心意アラスを靜定アラスしむべきものあれども。其勢劇アラスた病者アラスも。嚴酷アラス小アラス呵責アラスて。擊敲繫縛アラス或アラス監舍アラス小アラス入アラス困屈アラスからアラスむるアラスあら詮アラスば。治アラス一得アラスぬものあす。是神氣アラスの險悍アラスたるもの之アラス戒鎮止アラスるアラス。

肩項卒痺

ハ故あく一々肩背卒小強痛頸項小及々裂が如く小  
知々心下苦迫と思まもあく昏眩言語おと能ぢ甚たハ失氣面  
色滲淡脣紫黒色小ありて手足厥冷お世俗小もやうちのと  
いふ最急劇證なり。迅疾ありぬ刀刃剃頭刀やうのもの小  
く肩肿の堅結たるところを研て血を漏れ。湯と茶盞など  
の類を打破。肩の強たるところを抓破て血の饒多漏出やう  
小をよおとなり。血出がたくば吸角を用べれられどもさやう  
の器もあくべ口から吸出でよし。又壇の口大ものを用べ。發燭  
小火を點て中か投創口へあて。手を放せ頃刻あきべ血を吸  
出にあり。小瓶或は茶盒などの類茶盞やうの物小くもつぶふ

の器の口竅腹瀉を用ひよ。此證發ものも平常上衝氣逆  
胸腸痞塞合身をベテ上實下虛諸藏牽引小由の多たが故ふ  
常に其體息心伐調和る法を勤行。患ヒ避ベ。病の原因も父  
母遺毒轉染癥毒及肥前瘡あとを咎マ鬱毒あるよを發もの。十  
か八九よりよくそよらのあとを顧慮。再發の變を防ベ。毛  
一發六と再三お及これ。卒死救べらざるかも至そのあき  
バ。あらゆる忽視もあらぬ病なりと思。然  
**衄血**の山るら妨害なく。安ふ止く。後害あるあとあせば。其自  
然か止を待たるがよけ也。ビ一饑多小漏出く止がたれ。ま  
た怖る出とあたか一もあらねば。之を止て可鼻孔か綿或も紙

と捻こねく實サスグ。或モち礪石ミヤクサンの末エを鼻中ナシナカへ噴入スルる。或モち頭上アタマより寒ヒヤ水ム沃カキのけ。脅股ヒダモを布ヌまシしも條帶ヒヨウゼをどかシて縲縛ハラフベル。尤モロコ久キテ縛ハラフたるまハにあくハあー。どシく解スルや。おト止マサニば。渦ハリと繁ハラフよー。渦ハリたち紙敷番カマゴロクマイを摺重タマシく水ミに浸ヒダスル。頭上アタマ小安オキ。そノうへよシ慰ヒツシ斗ツ小烈火ヒヨキヒバ盛スルく慰ヒツシてよー。或モち寒ヒヤシ水ミを兩脚リブか灌ハラフくるをシテ可シ者モ。即ソク効タカラあるものあり。毛モ一腳冷ヒヤヒヤるものも。熱湯アツキュー小磬石シヤカバンの細末ヒヨリ二三十箇カウと投スル。絶骨アツク以下ヨリレタを入スルて温ムシムシもあり。熱湯アツキュー小磬石シヤカバンの細末ヒヨリ二三十箇カウと投スル。絶骨アツク以下ヨリレタを入スルて温ムシムシるもよー。また寒ヒヤシ水ミを頬小内服ノシて止マサニるものあり。寒ヒヤシ水ミと不意アシタ小其チ人の頭上アタマへ拊スル。驚駭ビックリさせて。即ソク効タカラと得タカルたるもとモりあり。何シも時の宜シキ小從シテい機キ小臨ハラフて用スルべル。

吐トキ血イク咳嗽セイ小つシテく。血絲イクシテを痰唾タシナカ中シ小交シテる者モ。怖オカルべたあとモり。是コレハ胸中ナカ小破裂ハガレたる所モあるをシテ。輕視シテて見シテから。大シ小シ吐トキ血イクト卒死ソクシをシる。不然シカク大患タマニヤウ小かシるものモなシ。必シ忽視シテかシらぬシあとモ。抵當シカクをシ藥クスもシくシ。自己シテの小便シテを頬服ノシべル。無病モハヨウの小兒シキの溲シミを用スルもシ。穀食メシぬ兒子の溲シミをシ惡臭ニホヒもシれたものモなシ。世人モヒンも犀角サイカクを專モロコ小用シテ。也モ劇證ハラフシヨウ小ちさせシテる効シテ。此コレ證シヨウ小大便ヒダモの通トスルあとモ。大小秘結ハシモケツをシる。可シら称ハラフシテば。便利ハラフシテ小滯シテみきやシテ。小預シテ其用意シテあるべシテおとシり。吐トキ血イク小入津シムツ姿シマツ中のモの絡シテを刺スル。血ミを取スルあとモあるも。胸内ナカへ迫シテころの勢シテを挫ハラフシテんシテためシテ。急劇證ハラフシヨウ小シ。止シテあとモを得シテ行スルあとモあり。内服劑シテ。其證シヨウ

小從ヨリと區別セヤバツある。ども俗家の備急レロウト。捷便コロエおとを授テナカキていもべ。土ワタハ糲ヨリを紺末シラフ小シラフ。冷水レヤシラフ小シラフ服モモチラフるも。百艸霜ナベガミを末シラフ用フるおとカハあとよし。又單小新汲水イハモノミタテノミツを大オホ嚥ソクカラ。即効イツカヒあるをあす。又嘔逆ムカヒケありて飲食タベモノと一同小吐イハモノ出ハキイダして。其色黯黒クモロシものち。胃邊サブクロの破傷ハキたるより來キタるあとば。多く愈マサフるより。食エシを交シテ血スルを吐ハスあともあり。此證シテち必嘔氣ムカヒケあるものなり。血スル成ハカル吐ハスんとそれば。大便ベジへも血スルを交シテ下シりもある。そとを見て周章アスクレごも。纖絲カツキイトの似シテ吐ハスのよリも。治ヒ易ヤス。其腹中ハラノウチ蓄キリたる血スルも速ハヂタ下シをべ。酒客サケイなどの吐ハス血スルも。十トキ七ナナ八ハチ此證シテみシテ。破傷ハキの創アトさへ愈マサフば。後害ナガみれどのなきども。酒食ウクシの慎シテあリけば。大小吐トキ血スル一イ立タケ死シルるおと

あす。故ヨロシふ怖スルるあとあとといふ小ちあらば。又肺癰ヒヨウ或ハ吐ハス血スルの證シテ既ハシメ小治ヒしたる後シテ小シラフ必首卷カヌミハジメ小述ハシメする。體息心トドクを調和シラフる術シラフを學シテ。その再發サイホウと御ハシメべ。肺癰ヒヨウ及トク吐ハス血スルのいまと治せざる間シラフ。予ハ此法ハシメを授ハシメて。其重患ヤマヒを免マサフめたるあと試驗ヒロミシ比比ハシメたり。近世シテの有志者コロアランモジよく其意シテを得ハシメどき。小從事シタガフあとみシテ。

**脱肛** 大便ベシ一イ後シテ卒ハシメ小脱肛ダツカウ收ハシメぶたれシテおとあり。小児ハシメ多ハシメある。とあり。手巾テヌガヒと熟湯アツキはシテ鹽湯レヨウ或ハ乾菜菔葉ダイコンヒの煎汁ヤニシヒなどの熟アラキとの小浸ヒタシ。よく慰ヒツメクて後シテ小シラフ食指シキと中指ミヅシを摟住送入ハサフ。立タケ一イ身シを反ハシメせ。後シテ筋斗ヒラトリをシテ立タケて。肛門カウを縮ハシメば。速ハヂタ小收シテあう。とシテ一イ出ハシメるあと久く。腫脹オサリ收ハシメたれシテ。其脹ハシメるところを爪ハサフ。

に。微抓破。血を出。さて後小送納。若宿疴。素常脱  
肛もる。此の如く小内ても。その原因。驅去ねば。平治を  
して。大便の毎小苦惱。常小癖。小あり。いふ小。ても。納。お  
たたら。小蛤殻。小綿。鋪。月門。小當。そのうへ。より。布。小。内裙  
の條。小絞。つけ。かく。答。一痔漏。小なり。たる。忽視。べら  
ば。そき。より。變。不治。小。者。ま。見た。又痔漏。初發  
焮。腫。甚。と。臀癰。あ。誤認。たる。醫士。あり。て。治術。失錯。小  
さ。たる。見。たる。あと。あき。俗人。ふ。も。其用心。あるべ。たあと  
な。

長蟲下出

さみざむ。一。條蟲。又。長蟲。と。稱。俗。小寸白蟲。とい

ふも差誤。あり。あま。小駭。る。長。さ。十餘丈。小。至。の。あり。一  
二丈。の。と。の。ち。怪。む。小。たら。ぬ。あと。より。此蟲。の。状。も。扁平。白色。關  
節。あり。て。一端。ハ。闊。一端。も。窄。との。窄。の。尖。の。細堅。と。あ。ろ。が。  
微圓。こ。ゆ。る。己。蟲頭。小。嘴。も。あり。齒。も。ある。や。う。み。り。此。嘴。よ  
リ。物。を。吸。小。飲食。の。液。を。吸。と。る。み。り。そ。せ。よ。り  
参入。や。う。小。飲食。の。液。を。吸。と。る。み。り。そ。せ。成。知。ん。小。ち。其。下。た。教  
蟲。を。取。て。飲食。の。甘美。液汁。と。蟲身。小灌。の。く。せ。バ。蟲の。腹中。忽。小  
膨脹。お。と。口。あ。で。吸。が。如。し。これ。も。饑。小。長。毛。の。み。せ。バ。自然。小  
茲。の。ご。と。く。小。周身。よ。養液。と。輸。と。み。え。よ。蟲。あり。病害。を  
爲。さ。る。其。人の。日。く。飲食。を。る。液。を。以。て。己。の。蟲。の。生。育。小。餘。あ

生へ常の苦惱も又は小似たきとも年を経るか從て、血液中の  
精微の氣漸小缺損ト遂から病を發し、瘡となり。又ち鼓脹勞  
療の類小もあり。或ハ水脹みどから爲て死ぬるか至まざり。此  
蟲の害ゐるぞとも挂念ぬ之のあり。嘆へたりと小あらばや。故  
小此蟲あるかと知らば。假令壯健小して微恙みくとも。此  
色を除去かと爲されば。後年の害懼ヘ。穀肉を遠て。榧實を  
喫かと七八日小して其腹中が悉榧實をうす小あるやう小を  
生べ。蟲必下る。越迄まで小へ至じとも食量を減して。炒たる榧  
實を日く怠慢に喫く。効を得たることのあり。蕪夷仁。蘆薈。胡黃連。  
三味を丸薬小し。長服下たるものあり。鷄胡菜湯といふ藥もま

た驗あるかとあり。又此蟲の偶自下せたふ。知得べたおとも。七  
の出がたれか困苦て強く之を拽んとをせば。必引斷く。其餘を  
腹中少殘む。其外へ出で断たるをのち。此蟲の尾小して頭も必  
上小向く内少殘。且關節每小口あり。生育か便よければ。其斷  
傷處も自然少愈て死ぬる六とあく。漸小長大あり。後害を醸  
小も至れと明る。故小此蟲の下るゝ事たるを誤て拽斷べ。再  
その自然小出を待ち難かとるをば。必強小拽おとるのれ。凡く  
蟲ハ冷と憎ものかとば。蛇蟲あて痛甚く。甘草粉蜜湯などの  
甘品を用ぐも効なく。萬方小しても痛止がたたもの。寒水を  
大く嚥くも。頃小止とのあるも。蟲の委縮く咬たるところ

と離も故あらん。おとらば以ともたゞ搜も下ぶたれおと  
伏顧慮。故小此長蟲の下卫來るをたから。先速小微温湯小  
米泔水やうの物を加く器に實。その湯の候へ。口裏の煖氣を  
大畧同らしめ。其出たる蟲の端を此湯中へ没。徐ぐ小搜出る  
。其裏小出くぬるとあらば。少間手を放て再緩ぐと搜み。  
その出くぬるも。嘴があるゆゑか。それを腸裏へ嘴つく。ぬ  
も關節ごと小竅ある蟲など。腸の蟠曲の間小喻つたて離ら  
ぬるみらん。慮せば。おと伏強て搜べ。山うねく切斷にもい  
たる道理より。故小嘴の細尖て頭圓ところを見るにあらねど。  
全體出たりと思ふ。此蟲あるとの病氣腰痛などと患

のみならば。瘡瘻急る。伏發をるとあともあるなれ。龍  
健飲て。體氣充實。あひだら。害を爲べと雖。搜斷後腹中少遺た  
る。後年の害怖畏をたれとす。又児の母。自此蟲の候。あきそ  
其生兒も。多く搘搦驚瘻を發。志らも救ふべく至る。ものある  
小よき。其児の穀食。おろか。其母の體質。小似。此蟲已小腹  
中。小生する。故あらんと思。故小試。小之伏下。とども通じる  
。あと多く効。タ。の。兒の脆。た。腸胃裏。ぬ。と。齒傷る。故小  
搘搦と發。その齒傷處。遂小愈。がた。小もあらん。かゝる證  
ち多く試。驗たる。小もあら。然者。小の初。小舉。ところの三  
味の丸子。など。生來。よ。急。を。服。し。めたらば。可あらん。と思。

る小もあらん。兩兒とも小其母の乳も些も喫へぬ。乳媼も  
予が自擇たり。はた。此長蟲ハ蛇蟲ある者の腹中小も混  
じて生むる所とあらずと思ふ。往年一病人の蛇候あり。小  
鷄胡菜湯を與たる。蛇蟲十四五頭を下す後。一日大便せんと  
一々虎子小臨たり。通せば努力久しく。一塊の物を下す。其  
状候令べ。薦麥引を一盃。小盛たるがおとく。色白扁平。長  
丈有余もある。此蟲の全體具足。もの。常小見る  
ところより細。たゞ一頭下す。其後の蛇蟲のみ前後三十餘條  
小及ぐ。病愈たり。凡て蟲の證候。小。奇異。おともある。か。べ。  
その病者自よく注意べ。醫士小の。一任。大。小。損失ある

み。不年所。予が近里。小。其むろ一幼時。小此長蟲を下す。あとあり  
び。そのとれ強く。拽たる故。小腹中小斷たる。其後何の妨害か  
く年長。嫁て今小至ぬといふ婦人のあリ。三兒を生で。そ  
の兒十ヶ月ごろ小至べ。いづれも皆摘搦を發し。いのれる藥劑  
も寸効みく。死り。其後また一兒を産ぬ。その兒の生て  
百日許。小至一頃。予が摘搦預防のあとを問けるまゝ。試小蘆薈  
蒸夷仁。胡黃連。麝香の四味を丸小。乳母とこも小服しめたり  
。小。前兒の死と。一頃小至ても。微の恙もなく。其翼また一兒  
を舉。お邊も遠た同劑を用ふ。此兩兒今小至て健。小生長ぬ。おれ  
七の長蟲を一々生ぜしめざらん。爲の所措なる。肯綮小中

その又ア因小言ベニバ。痔の瘻堪カニミタバたれ者小細蟲肛門小生モ  
るモのアエ。お色成古醫書小蟻蟲至微細形如菜蟲居胸腸間多  
則鳥痔極則鳥癩といへア。此證今も現小見ところ小く。おきま  
た省ベニあとより。

注フヨウ 轉カツ 船ニヨウ

眩運頭痛恶心嘔吐ハカヒテをるおとあり。嚴醋キクサスを飲ムべー。  
口鼻ハナへぬるも嗅クルもよ。醋ハカヒの中へ燒ヤクたる石瓦カスかても炭火ハシビ  
も投スルて嗅クルもよ。まゝ硫黃イワク小火コトコトを點ハカルく嗅クルもよ。硫黃イワク  
にれた小火コトコト引光奴ハゲヤを用フべー。

湯ヨウ 火傷ケケ

小ち雲丹ウニを水ミ解貼トキシべー。速ハヤシ小行モチくべ。意表オモヒホカの効ヒある  
ものなり。或ハ鷄卵タマゴを水煮スレて黄イエを鍋フツ小入メシ漫火ロヒ小手コトコトと止

べ炒ハシバ油フタ沸ヒヤウ出スルを取フて聽ハシ用フこトはハシた妙ハシるア。輕證ハラハラも炭火スモノク上ア小  
のざハナをあと少時間ハラクノアハをきべ。頸ヤガ堪コロコロよくなるあり。はハシた燐苔ヒラホコの中  
小蓄カキるいちびがらの燒ハシると末ハシ小ハシく。油フタ小ハシ和ハシて貼ハカルも効ハシあり  
と。或ハ人の傳ハシたきハシども。予ハシ未試ハシ。

咽ハシ 捶ハシ

一切染錢果核ハシみの類ハシ。小兒誤ハシて嚥ハシたるが咽ハシ小喧ハシて。吐  
ごも出ハシべ。いの小をせハシども降ハシぬあとあり。其時小ハ鹿角菜ハシと煎ハシ  
く。其汁ハシと服ハシが可ハシるを速ハシハ麻油ハラ。小盞ハシの半許ハシも用ハシれハシべ。  
滑脱ハシて頸ハシ小效ハシあり。他の藥劑ハシなど必用ハシべらば。此車ハシと信濃ハシの  
山家ハシより傳ハシたりと。秘訣ハシとある醫家ハシあきども。さてハシ秘ハシをべ  
たがハシのあとハシあらハシ。世俗ハシのことハシべハシくハシといふも。此

等の類よりと知べし。はた。微咽梗へ。力を極く両手を高く上へ  
舉せば。忽小治フヰ。不意小背ヒナカを拍りよ。此両法へ。呑逆レヤケ小もる  
おとろう。呑逆レヤケ小も。水を嚥スムも効あり。如此類のさせらるおと小も  
あらぬ。世小記たる書ホンどもが數多アラシ。今此小も罄ヨリ。委細に領  
知んと欲べ。他書小檢セヂをべし。はた。因小説イフべたへ。小兒誤て菽マメ  
耳中へ推入オシテたると。一鑿ハルヒキと稱器イフ。小て挾て出せハサウ。當  
即の機轉キテ。此器へ外科小用アラジ。鑷子ケスキ。本街の鰯屋アラモリなど小  
々鬻ケルとのみ。此等まで記得コロロべたあとある。

犬咬傷

が。毒ドクを人の軀裏カラダ小輸ガイナスて。害を爲ナスもの。狗の歯牙の涎唾ヨダレ  
が。其咬傷ソノカたる痕底カタ小遣ハサウたると除去ハサウさるか故ユエなり。此涎ヨレだ小よ

く除去トドリて毫イナカも残ハコおとみけをべ。咬傷マハレたる痕アツメも。不日愈ハドナて。決ハタく  
後害ハタガキあるおとろ。こモは除去トドリ小も。先モその咬マハいたる傷處アツブの血  
を絞出ハサウべ。血イド出ハサウべ。創口カブキを破開ハサウて。後モ小血ヤハを出ハサウもべ。七日よ  
ア冷水ヨクシ小モよく洗ハサウべ。血ヤハも止ハサウなり。其時モ小創口カブキをよく開ハサウて痕  
底ヨクシを熟視ハサウべ。白色膜狀ヨクシ小鳥トリたる者モア。是乃狗の涎唾ヨダリの凝結ハサウた  
るより。それ歯剔牙ハサウやうの物モノを以モく挑出ハサウく。微モも殘ハコおとろく。再  
令水ヨクシ小モて能ハサウ洗ハサウて。後モ小創痕カブキ上モ小灼ハサウ火モ十二三壯ササをべし。人糞モロコシを填  
く其上モより灸モロコシをモよと最良モロコシ。猪狼オオカミなどの咬マハるも。此治法アヤシ小同  
一切の咬毒モロコシ小人糞モロコシを填ハサウ。その上モより灸モロコシをモよと尤モロコシ効モロコシあるもの  
あり。行旅モロコシなど小て。灸モロコシも卒モロコシ不得モロコシがたくべ。燐消モロコシを盛ハサウて。火盆點モロコシ

るもよ。山家小へ火銃の細火薬もあせべ。せせら小々も乞求  
く用べし。またち火鎌の發火刃創上ホトナ小填キハナく灼キスルもよ。かくそれ  
ハ。後の害を決一ケツイチてあるおとよ。毛一咬カバたるは。即小治を  
施たらん小も洗アフるのみ小々灼カタ父をシタ小至シモシタをともよだおと  
されども。こやろくをるうち小毒の肉中ミヅシ小浸入シモシタおとのあらん  
れと怖るられべ。凡ハシ々キテ灸アフ一ヒるがよ。此治法を知シラば創口既キテ  
愈ハシんさせシテるもの。其創口カタ再切開カタハシマツキ原の創カタよりも闊大カタハシマツキ一ヒ。  
血カク多く漏カクて後法の如シテくシテさく發疱膏ハバウラといひシテ貽シテば疮カブを  
發ハシマツキせる膏藥カウヤあり。毒ドクを一所トコロ小能シモニタ呼ハシマツキものシモニタ偉效カタハシマツキあり。此膏カウヤ今ハ  
醫家イレヤ小も知シテたる人衆オホく藥鋪ギダスヘ小も記シテ得タリたるものアリ。得タリ貼タリべ

1. 葛上亭長カウジョウテイショウ和名カウノミぬもんぬうカウヌムヌウといふ蟲田間カウナカ間カウナカ小も多カウタタあるもの  
みせべ。それを採トリく何ナニの膏カウナへる事カウシタと交カウシタへ貼タリるもよ。射工毒カウコウドクと  
いふて水中カウシタ小ある毒蟲カウムシが毒カウを人カウジン小噴カウスルりけカウシタ憚カウシタせらカウシタれたる創  
處カウシタ小斑猫カウバンマウを貼タリて毒カウと呼ハシマツキおと。漢土カウの醫典カウ小載カウシタたるも。亦此類也  
犬咬カウカウの輕症カウカウも。發疱膏ハバウラのカウシタ以カウシタ可カウシタもあり。巴豆カウボウ大細末カウシタ小一ヒ  
貼タリも。まよ効カウあり。凡ての主意カウを毒カウと他カウへ散カウシタば小排除カウカタを旨カウシタと  
もるもよ。たゞ迅疾カウ小治カウを施カウシタおとと良カウシタとカウシタ。とカウシタ治術カウ肯綮カウ小  
中カウじ時日カウを過カウシタて後周身カウ小熱カウ發カウ。手足麻痺カウおとと覺カウシタるヒの  
是其毒カウの己カウ小血液カウ中小轉化カウ。將大患カウ小至カウシタんとカウシタるの兆カウ  
色カウ。速小蕃木鼈カウ一錢カウ四五分。大黃カウ七八分。一味細末カウ小一ヒ。二三

と知る。この故小必疑惑おとあられを。ことを伏知ぞ。後日  
小聽たるものち。先も慎ぞ喫ざるがよ。創痕已小愈する者へ。  
決一々禁忌を犯すあらじとも。古人もいへ。今此等の物を生  
涯禁たどとも。生養の妨かざるふもあらじ。の、る持戒り。まゝ  
脩身の一車みきべ。其理ともぬ。能思べ。毒己小内攻一々。狂  
躁須臾も寧あとさく。嘔逆脳運心悸満。咽喉不利。叫喚犬の吠  
ふ如く。及水を懼るあと甚だ小至くも。多くは之を不治の證。こ  
れども人の獸類の状態を爲て悶死ぬるを。三つ、殺もまゝ  
道小背ぬをけどべ。仁慈の心。小果決。命をば天小任て。至毒猛  
厲の一物を以て。之を救得さをべた活手段あり。おと醫術の上

貼も用。之を下をなし。此藥を用。麻癰却て甚くろるものあ  
れ。驚べき小あらじ鴻下あり。後小愈。輕證。小も。鐵漿水二三合。  
生薑汁少許を加く服べ。の、るものも。其創痕愈。而とも。發  
疮膏を大小貼て。毒を誘べ。若尋常の犬咬毒小へ。蟾蜍蟾最効  
あるものみきべ。外治を兼み之を喫べ。内服劑を用。小及べ  
必治べ。さて世間小犬咬毒小禁忌といへる。赤小豆を丸ト  
め諸の肥膩川魚及酒染の類遺ところなく施治の間。おのへる  
かれる喫つくを。此事の唐土の昔の一醫が嘗て論說。おと  
小々。其理至極せるあとみきべ。予も之小從て多年の間。一切禁  
忌と稱るものと覧。かゝの如く喫一軒て。後害決一々無おと

小も。絶伎ヨウジみきべ。こゝに記べたおとふもあらば。俗家の記得て  
裨益ヒスケとみる大略アラマレも。上所述シテごろふく事足コトタクぬべー。然へあきど  
も。世の爲ガバよ。此小一の奇術キツツクを舉ん。の水ノミズを怖オルるおとの甚ハシたも  
のを。裸體アカダカラ小一井旁キハタタへ將來ツヨキツレバ。鉤瓶ツバ小一頭上アタマより大に水ミズを灌ソザて。週  
身氷ミズの如ゴトくみるか至イチ一むムる。清流キヨキナガある處トコロ小ち。預下カネテ流カヌメ小人ヒトを  
遣ハキく。不意フイ小患者ビヤクニンを水中ミズナカへ投入ツブるあども。まよ可ヨシ是シち水ミズを怖オル  
精神ココロミナを轉化チシナせ一むる妙術ミツツクかて。予ヨグ嘗試カシコロバるおとふきべ。俗人も  
よく其意ココロを得ハシて行ハシべ。はと尤トトコロ記得ハシべたおとの要ハシい。一切異物オツキモノ  
小咬タニミサレ蟻アリなどドたる者ハシ。其手足ハシなどの絡ハシを刺ハシく。血ミズを多ハシ漏ハシふと  
て愈ヒヤさんともる大ハシなる左計カツキふく。却ハシく害ハシを招ハシおとふり。は

大犬咬イヌニカシ毒ハラ小水銀阿片ケンアブみどハシ内服劑ノハヅシとハシ。或ハシも患處カミホ小貼カミハシみどハシを  
る等トウの誤治ハラハラも。皆ハシらの道聽塗說ヨニゲハシ、蘭鑿者オランガーハシヤ流シナリの真理ハシ小味ハシにより  
出ハシたるおとふく。その世の害ハシと爲ハシまと淺步アサキ小あらば。俗家ハシも預  
より猛省ハシ。その欺ハシを受ハシるおとふるをハシ。

蛇蟲咬ヘビハシナドニカシ傷ハラ毒蛇ヘビ小咬カマ色ドクハシ毒蟲ハシ小蟻ハサれたハシも。治法ハシ大咬イヌニカシ毒ハラと同ハシま  
とみ。蝮蛇ヘビの毒ハラもつハシと甚ハシく。速施治ハシをとハシ必ハシ愈ヒヤべ。志ハシあら  
ん人ハシも。邊鄙ハシの人ハシみどハシ此法ハシを傳ハシて。其患ハシ成救スカあと多ハシるべ。し  
凡ハシて蛇ヘビの類ハシの毒ハラを解ハシるハシも。漆拂シラカギかよび乾柳カシガキの類ハシを生ハシかて  
をハシ前ハシトハシも。多服モモハシて妙ハシみハシ。嘗ハシて鄙人ハシの傳ハシしも。馬ハシに咬ハシれたハシも  
ち葱白シヤハシを嘴爛カミタヌシて貼ハシべ。蜂ハチ小蟻ハサ色カマハシたハシるも。芋梗カガラを以ハシて摩ハシせハシば。疼ハシ

速小止といひへり。試たるおとちあら御と物類の相感れ。微妙なるとの小。意表みるおと多けせば。か、其類も一槻小効をも。ともいふをうらば。惣て書典小載たるおと小へ信据トのべ。又おと多あきども。僻境ナカなど小傳たるも。實驗あるおと多し。たれおと多あきども。僻境ナカなど小傳たるも。實驗あるおと多し。芻蕘キガリの言とも捨ざるも。古聖人の誠み也。巴イエシジンこをまく會得あるをれおとあり。又人小咬れたるも。大小痛苦ともあるとのみ也。其初小速犬咬ジイヌのあとく小處置レウサしよ。そべくかゝる咬傷カミスルトコロの毒も。その牙ハラ齒の痕の涎唾ヨダレより起原ハジカルおとを知コロエ。發く之を去セイおとを要とべれり。

**犬咬傷**

**サル**

**セイイチ**

**サル**

この内服劑ナフ小至ナシ。大タケ小區別レヤベアあるおとあり。此毒質ドクシキを犬シマツ比ヒきべ緩慢ユルヤハ小ナシ速シカ害ナスを爲ナスおとみ。故ニエ小創痕愈ナガクチの後ナシ。何ナニ措意コロシシカ。未ナシ棄スルて遺毒アトニコシレバ異日發動ホドキテ ウガキドたる時トキ小至ナシ。此毒ドクおと。然タモ断然タモて顧慮オモヒモヨラぞ齟齬クヒタカヒたる治法レウサ。小命オトスモノと殞者ムリあるも嘆タタクいたおと。又タモ故ニエ小其毒ドクの發動ウズクトコロの状ヤクの大概アラシと語レバ。惡寒サムナシ。發熱チクチク。周身シラウマ。小赤疹ハレクを發スル。おと麻疹ハレクのあと。甚タモとも譖語ボブみども。舌ヒメ小胎タタタを生スル。食スルも進ムぬ。と醫者誤認レヤアヤシ。傷寒レヤウクサン。或ソニと思テ。治術レウダを施スル。ども効アリあるおと。はタモ寒熱チクチクあるおと。瘧モラ。小似モリたる者モチ。また往來フモトサシ寒ヒキ熱ヒヤク咳キ嗽キ沈默モニ。と癆ロクガ療リ小類似ニヨウたるものあり。鬱悶ウクム不寐テモモヤスの癪證クンニク。小似モリたるものあり。頭痛グ眩メタ。運ムなども。あり。胸痺ハラスも。あり。

背腰痛もあす。肩頸強く脇もあり。手足咬たるが。臂痛を患ひ。足と咬たるが。腰脚痛と病。またも周身水腫ものもあす。麻痺筋攣みどるもあすて。自己も介意させべ。や、機警ある醫師小會おとあるも。外小察知べれ病狀の差別ある。小あら狂ば。蟲咬毒みるをしとも注意。多くも治法を誤ふ故。小往再たる證小も醫轉ト。劇證小も誤治小陥る。犬毒よりも緩慢するとの故。小却く之が鳥小死ぬるとのあるも。世小多見聞ところなり。故小醫小病狀を告る小ち。ゼきりこきのと既往の事まで。遺落多く談小非バ。脉按も立がたきとのより。こ此毒のみと言小もあらば。よく領知だれあとす。

金瘡打撲の心得を説

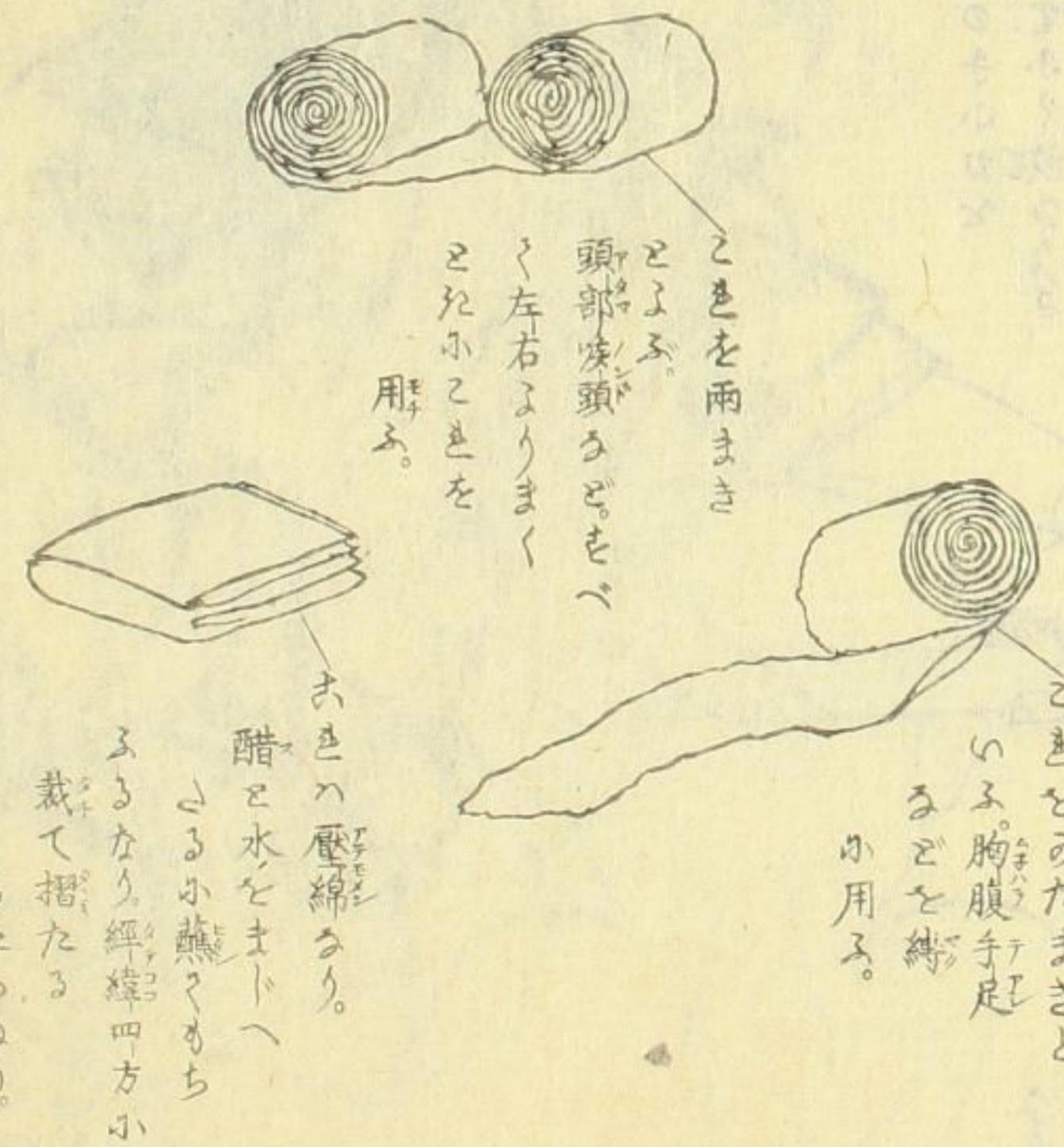
刀刃小く指頭を微傷たりと思やいヌヤ。創を鑒まもなく。疾捺て過時も放じ忍せバ。其創口自然に愈あひ。血も洩ば速く治ものなり。前小も説ひ。一切の病へ皆人身小始より無と出るある。外より侵く惱一むるを。排除んとく。熱とも發。膿とも釀。其對抗の力小從く。苦痛もあるあり。今刀刃小く皮肉を傷たるも。はよそのおとく。その皮肉が平素のとおり小相合。離斷させべ。元來ハ無。とおろの創み生へ。外より治を加べ。ヒ。自愈んこと伏欲るが。天然の機小く。その損傷たるところをヒ。已と接續。血も循舊小轉輸。離断たる脉管も。そのまゝ小相合

て。割カミも必愈ミヒるなり。此理を以マ大タなる金創の治法を察サシべ。假カト今いのるる大破傷オホキヤみどり。血ミモリを多泄ソノレザシくへ。其自然小背カタが故ヨリ小皮肉の相合イエテこと難く。止ヤムおと不得エ。鍼ハリ小て縫アフてスル也シ。必竟カタチセきハ外科の拙陋クタキ小起オニギおとふ。項喉モドロ胸腹モダラ罩丸マツシキヤク陰莖インキヤクなどのやうる處トコロも。不得止ヤヒナシ。その他ハ棉布モノよく層纏マキて。創處の勝理カハメ代齦タカヒせざれば。自然小治ヒヒるもの。俗家シロクトても其旨趣シロクと忘失シテおとむく。大タなる金創キノキヤ小會ヒヒくも。外科の來アリおと遲延オソクべ。尋常カタチの割カミも。迅疾木綿モノよく纏マキたるが。拙工クサバキの縫アフたるよりも優ヌヒるトあり。此裏モノの法ハ巧拙テギハのあるおとふ。也シ緩ユルらば急キツあらば。脣リ使スルおとふ。やうふ。いふかも定心コロカル小裹纏マフ

て。たかひ。平素精煉フシテさるもの。雖爲ハシテ得ゲタたたかとハシテあらば。故ハシテ小其捷槻ツノアラヤレと圖ツウ小著スルて示スルあきば。よく心解ハシブて急卒の用ハス供スルべ。纖悉クロヒキおとシテ知スル。也シの道シテの人ハシタ小從マサニ学スル。兵家ハシタひと小くよく習得ハシタ。軍中ハシタの備ハシタあるおと必然ハシタ。故ハシタ小其志ハシタあらん人ハシタ。會得ハシタあるべたあとシテ。はシテ金瘡カウキを洗スル。むうシテ正火酒セウキトキを用スルおとシテ。大タい可ハシタらぞ。也シようも。石灰シハを水ハシタび。暑月ハシタの膿ハシタやもくシテ。大タい可ハシタらぞ。也シようも。石灰シハを水ハシタび。且愈ハシタことシテ早ハシタ。也シ新汲ハシタ水ハシタ二ハシタ三ハシタ升ハシタ。石灰シハを両手ハシタて二ハシタ掬許ハシタも。投攬ハシタ。後ハシタ澄清ハシタ。細絹ハシタて瀝ハシタ直ハシタ小用ハシタ。必温ハシタるトコロか

よをば。おき代一外科ハダクから。秘傳の水藥ガクといひて稱用タマセ。近來  
喝蘭靈オラグイシヤの單スカの水を用スル。と聽キ。そき小效ヒおと小みりぬ。おき代  
ケ思ふ旨ハシナと符合フガフせるおと小て。石灰カシの水藥ガク小比ヒ。水を用スル  
かと大ハシナ小利リるおとあるみをスカ。俗人ハムも金創キンザウを水スルか洗スルとい  
え。必訝カミヤシいもん。洗スルころの水スルが創口カツコより入ル。破傷風ハビヤウか  
らんうと。おき決チてスルた理リ。おきスカ。靈士リンドウからあう謬慮ミラニをる  
輩ハシナのみに小あら称スルべ。その嫌疑サクナを懼スルをの。この水藥ガクを用スル  
した。たマのの大酒セタナウを用スルで金創キンザウを洗スル。空スル小患者スルを苦痛クワウせしめ。且  
後害ハシナを爲スルと多ハシナく比シマ。其功ノクカウ尤優ヨモマるおとみ。故ソレ小その弊ミタニを  
救スルんが爲スル。おきらの説セツから及スルなり。水療俗辯レハヅブの中小も此事コト

と論ロントたきべ。宜ヨロシク保考アセカガフ。さく深ハシナに創處カツスも。小兒ハドモの玩具モチアゲ小用スル。  
竹スカ造スルたる啞笛シカガホウなど用スルて。創口カツコへ彈射イカケて洗スルも可スル。外科ハダク小  
「おがい」といひ。鎗銅シンカ小スカ製スルたる筒スリを用スル。其の洩血ハラタクを微スミ  
も中小遺ハシナと小スカへ。必膿潰カミウマさきスル。愈スルおとみきスル。故ソレ小慎スルで之  
を洗去スル。あとより。ものかスル器スルも。小スカへ。よく其創脣カツシラと  
左右へ開スル。旁人ソバノモノを一ハシナ土罐ドビン小スカ灌スル。洗スルもはよ。預白カタチき  
布スルと創カツの大きさより四五分許ハシナも長く裁カツて。そき代ハダク鷄子タマゴ白ハラミ小スカ蘸スル  
て。さくよく洗スルたる後ハシナ。創脣カツシラを婦女子フジンの衣裳キルモノの破裂ハラスを緝スル  
るやう小スカ心ハシナを定スル。參差タガヒメなく齧スル。齧スルぬやう小窄合ヒキヨウ。ありあ  
ふ椰子油ヤシ油。猪脂スミ。また麻油ハダクやうの物モノ。脣口カツコへのミ塗スルて。その兩

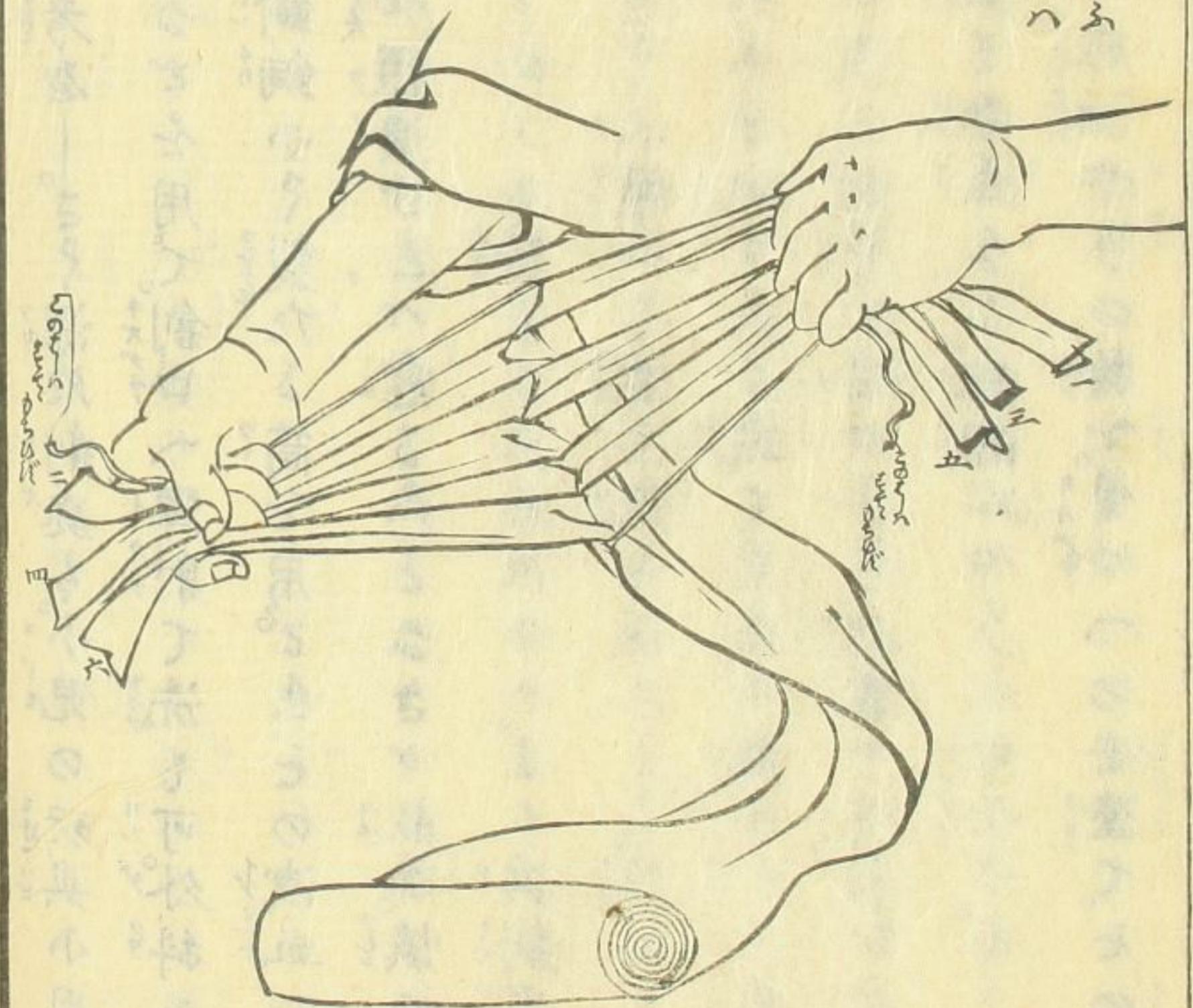


裏うら帯た小も。俗ぞく「ふ志しろざら」といふ  
棉布まんふともちふ。こき成な六ろく、裂さまたへ  
七八は小を裂さみ。もー指頭さしだを  
縛とじ小こ。おの裂さたる布ぬと。再な  
二に小さくともちふ。胸腹きょうふを  
手足てそくその處ところをあこぐひ。○  
廣狭ひろきせき便宜べん小こまうを  
べい。

胸腹きょうふと手足てそくを  
創處さうしょある。

一時いちじ小こ縛とじ小こ。

裂さと小こもその  
用意よういして。その廣き  
成せい胸腹きょうふの用もち小こあて  
狭せきれくたを以もく。  
手足てそくが縛とじみ。



大丸裏帯の法。頭部と縛るとよく  
會得し。又。その他へ  
何の部もあ。木。○第一の圖へ

吉かみトことよ

色。ことぐく

轉。ところと

示す。

學

得さる事の小

も。時宜小應ト縛る。もの

や

京小。こ、小先頭部を縛べ

た法を詳示する。そとへ

前小圖せる。兩まき裂布

を以て。まづ額骨下脣

稜骨の上廉を裏て。

左右兩耳の外郭上を

過て。又も小後面へ轉。

。

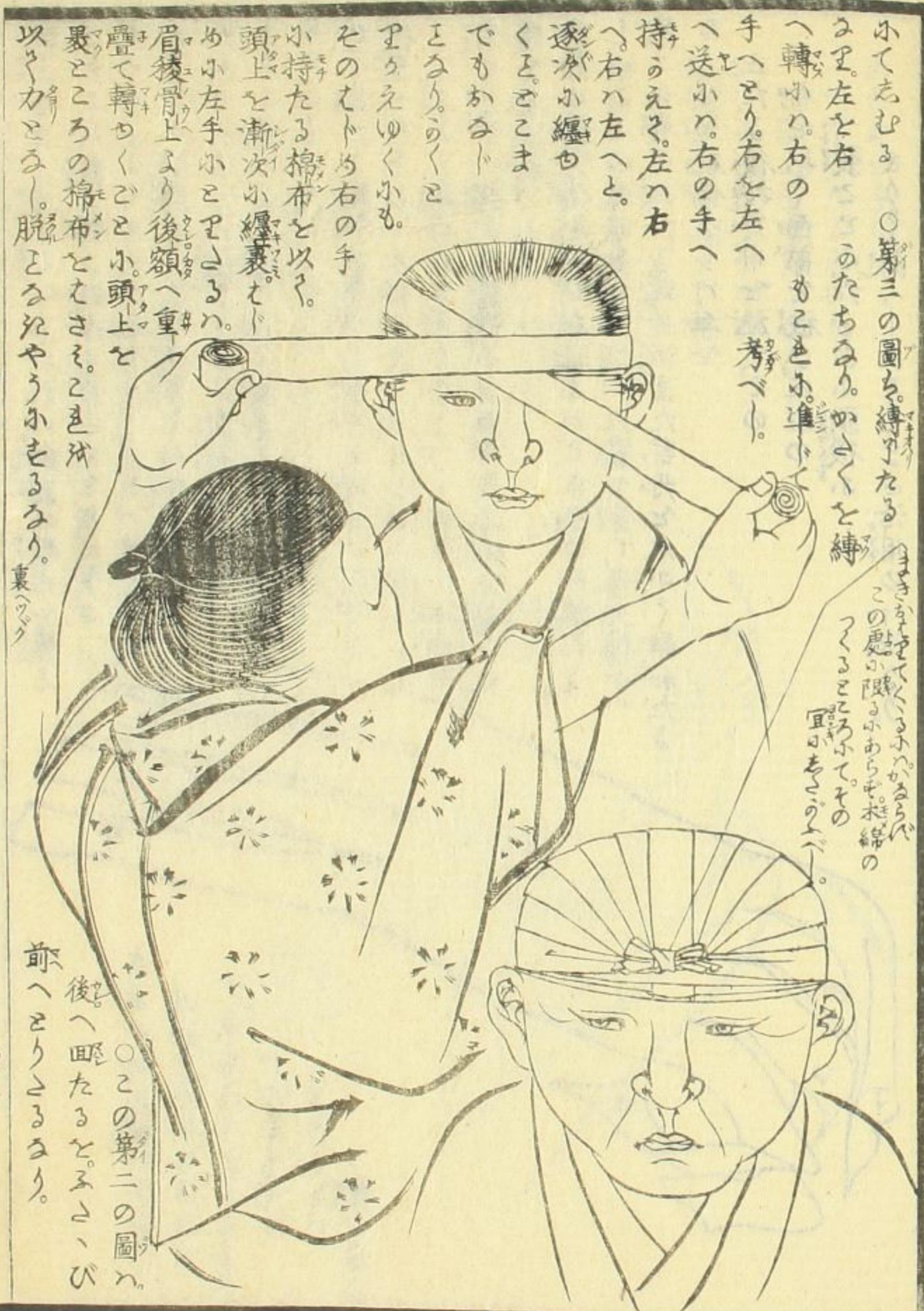
左手小在と右へ取。右小持たるを  
左へ遷て。第一の圖のごとく。小。左右の手小力と  
入る。後頭の項の上耳外郭上のことを小々絞り。さ  
くそより。また前のうたへ回て。再第二の圖のごとく。  
前のうた。眉棱骨上の初小布を施したる上の顔骨のあたり

まきを立て。この處小限る。かならず。木綿の  
つくることろふ。その  
宜日をとべ。

たると。右へとりと

も。ト。小左小もち

も。ト。小右小  
持たると。左の  
手小送ふる  
より



頭上アキラマをまく布タオル小力コトコトいらざれば。創處カツヅチの壓巾テキシヤンを護モリエ  
あたもべ。額ヒダリを轉ヒダルミる棉布タオルも。まく力を用ハサウエて禁ヘラジ  
玉タマ。やるもてとも小脱ハラシやもハラシ。されば可ハセバ。

あまた小繫縛モモリをぐき。患者ヨシナシその疼ツイ小堪カスガが  
たたのミカラビ。創處カツヅチもまく愈合ハツヒが可ハセバ。

こきを縛モモリ小よく意ヒツジを注ハドクす。緩急ヨロイハヤシその中ハナメを得ハセバ。

やう小をべれことより。」

前フモト小戴モモリたる頭部カブトの裏巾ミミズクも。倉卒サクサクの間ハシマ小ハ棉布タオルの  
使用ハサウエべたきのとも得ハセバたし。且アシテその法ハタチ小做ハサウエんこ  
くも。又アリよく爲ハシメざる者ヒトもあるべし。也ハシメ小再ハサウエ此ハシメ小  
常ハシメの手巾タオル一條ハシメ小。前法ハタチ小の也ハシメた活用ハサウエを示ハセバこと。

圖ハタチと音ハシメて知ハセバ。」

面部ハタチの湯火傷ハナヒがよび破傷ハラヒ小ハ。この手巾タオルが裂ハサウエたる  
もの。その兩眼鼻口カブトと齒ハラヒべた竅ハラヒを穿ハサウエて。湯火傷ハナヒふハ。  
第一ハシメの譽ハシメ小記ハシメたる。蠶卵油カタツムリ油オイルまた雲丹ウニと水ミズを融和ハサウエたる  
ひとと貼ハサウエ。破傷ハラヒ小ハラヒ血カクヒ

止ハサウエたる後ハシメ按定巾タオルを施ハサウエて。この

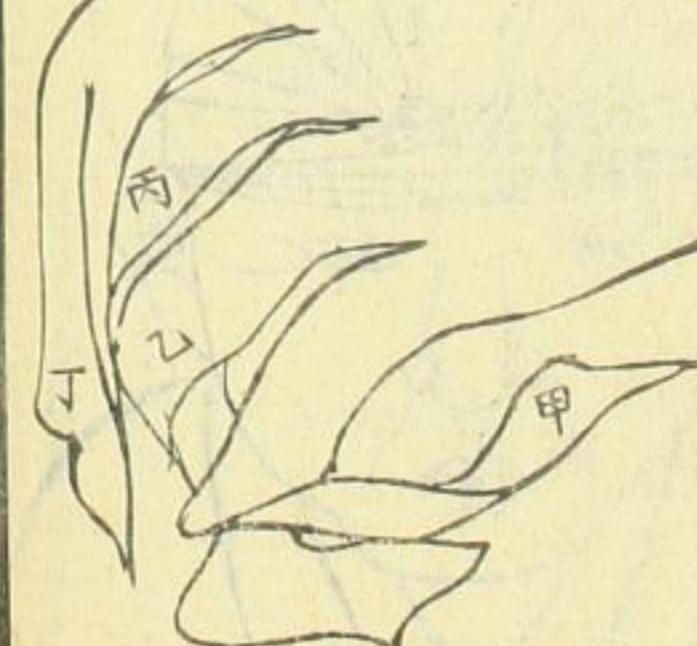
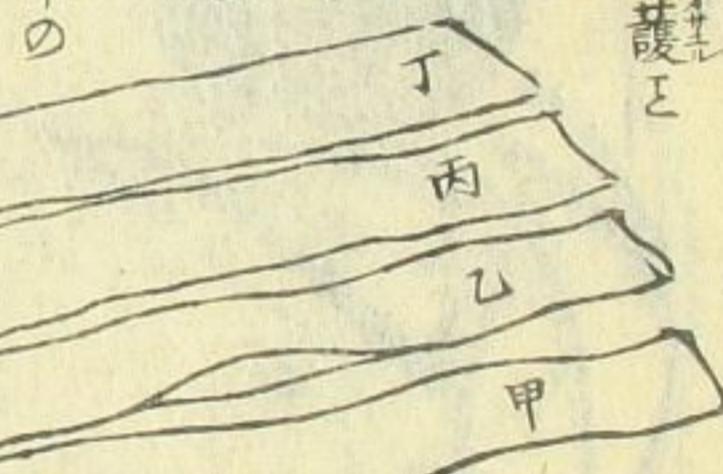
布タオルを以ハサウエて面部ハタチを被ハサウエひ。左右ハシメの

一ハシメ裂ハサウエごと小ハラヒたハラヒ小ハラヒ頭カブト後ハシメ小ハラヒ

こりく縛モモリべ。あまたまく活用ハサウエのハタチ法ハタチ。

出ハタチハ四ハタチ小裂ハサウエたるより。  
五ハタチ小も六ハタチ小もさて。  
もちふる事ハシメともあり。

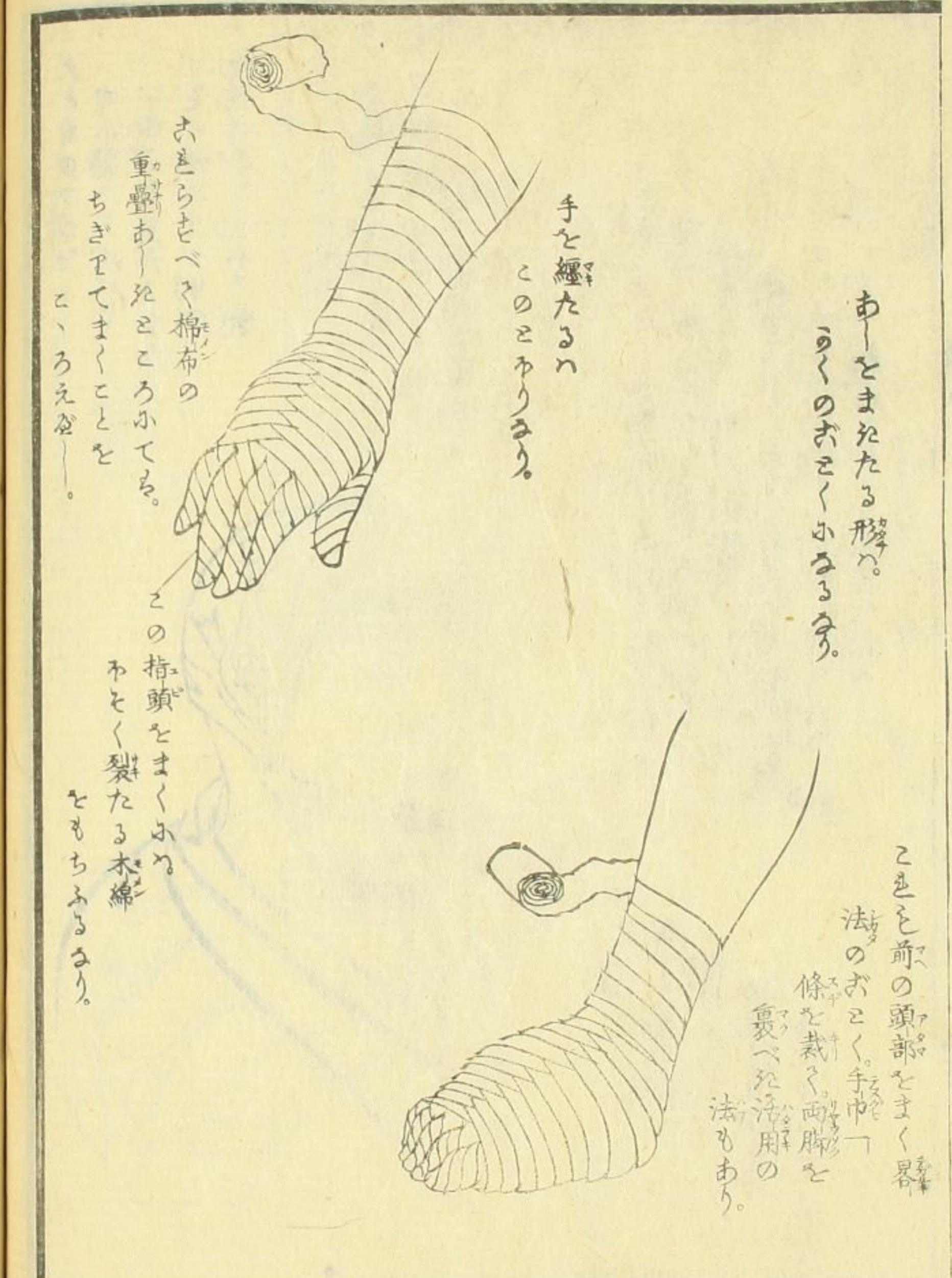
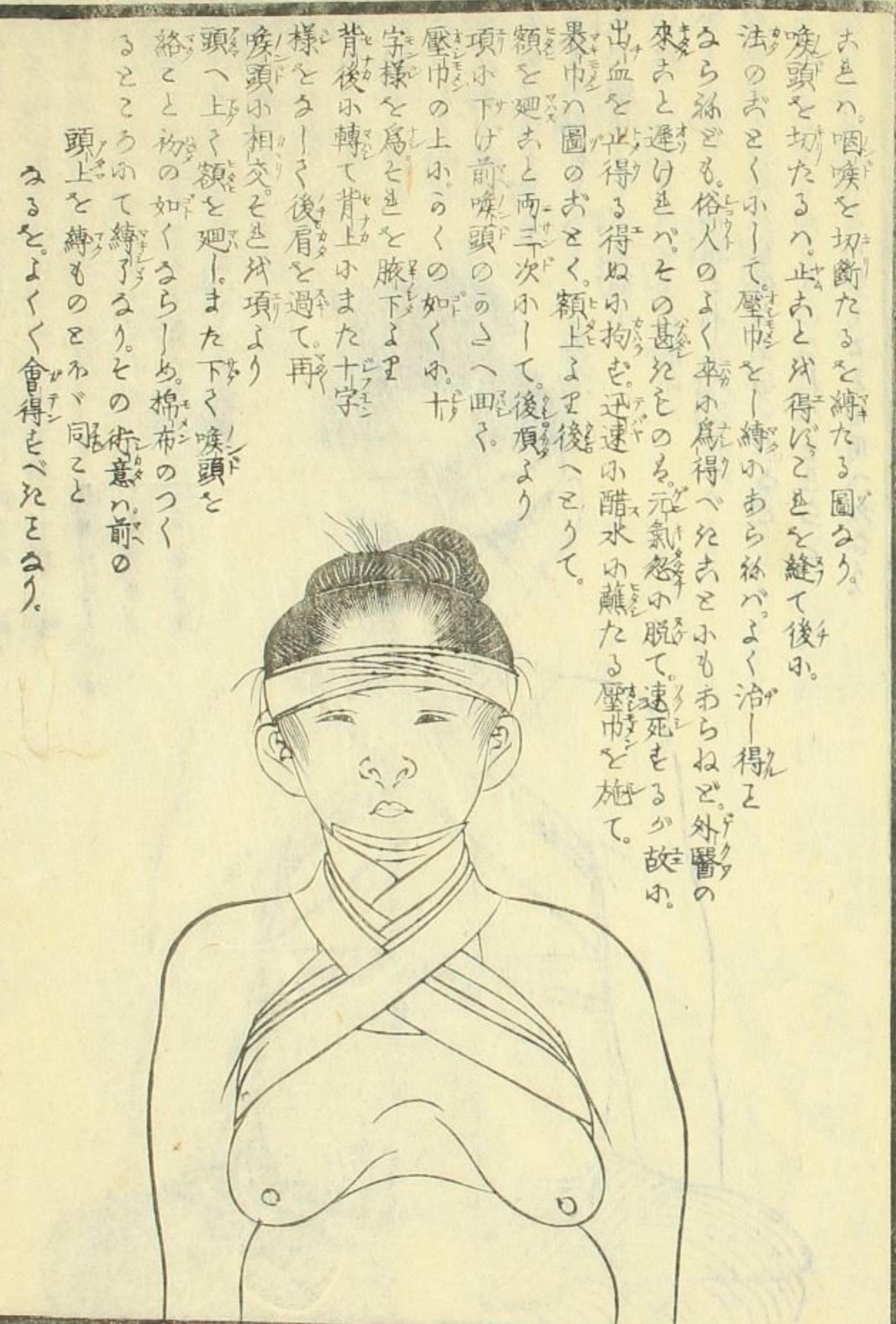
いづきも時の  
よろーハタチ小  
應ハシメ。



途中ハシメ多ハサウエ小ハラヒ頭カブト頂カブト多ハサウエと打破ハサウエたるものと  
救ハサウエん小ハラヒ貼ハサウエた樂ハシメ多ハサウエとも手巾タオル二條ハシメを  
得ハセバその一條ハシメとあハシメの裏巾ミミズクと。一條ハシメ成ハサウエ。

裂ハサウエて二ハシメ。とのハシメと頸下カブトの壓巾テキシヤン小丸ハラヒ。  
一ハシメを摺ハサウエて後ハシメ水ミズ小便ハラヒ小薦ハラヒて。のろく紐ハラヒ。

創處カツヅチ小あてハサウエ、あまハサウエを縛モモリべ。



前圖の如く小纏絡ても患者苦痛不堪る様也。

大仰臥の前小伏みどきあるとある。或へ癆病みどり發する事あればよく纏得たるもの

づら小その功をあとよりもくな。まことに自盡みせんことをする者ハ狂癪の婦人などか

ぬ、あるあとにて自セの創處を隠防の意みたもの

多し。そひらのため小。お、

小圖せるやうに巾三寸許の厚板を以て、

その背後小堅く

とも小纏あくべ。

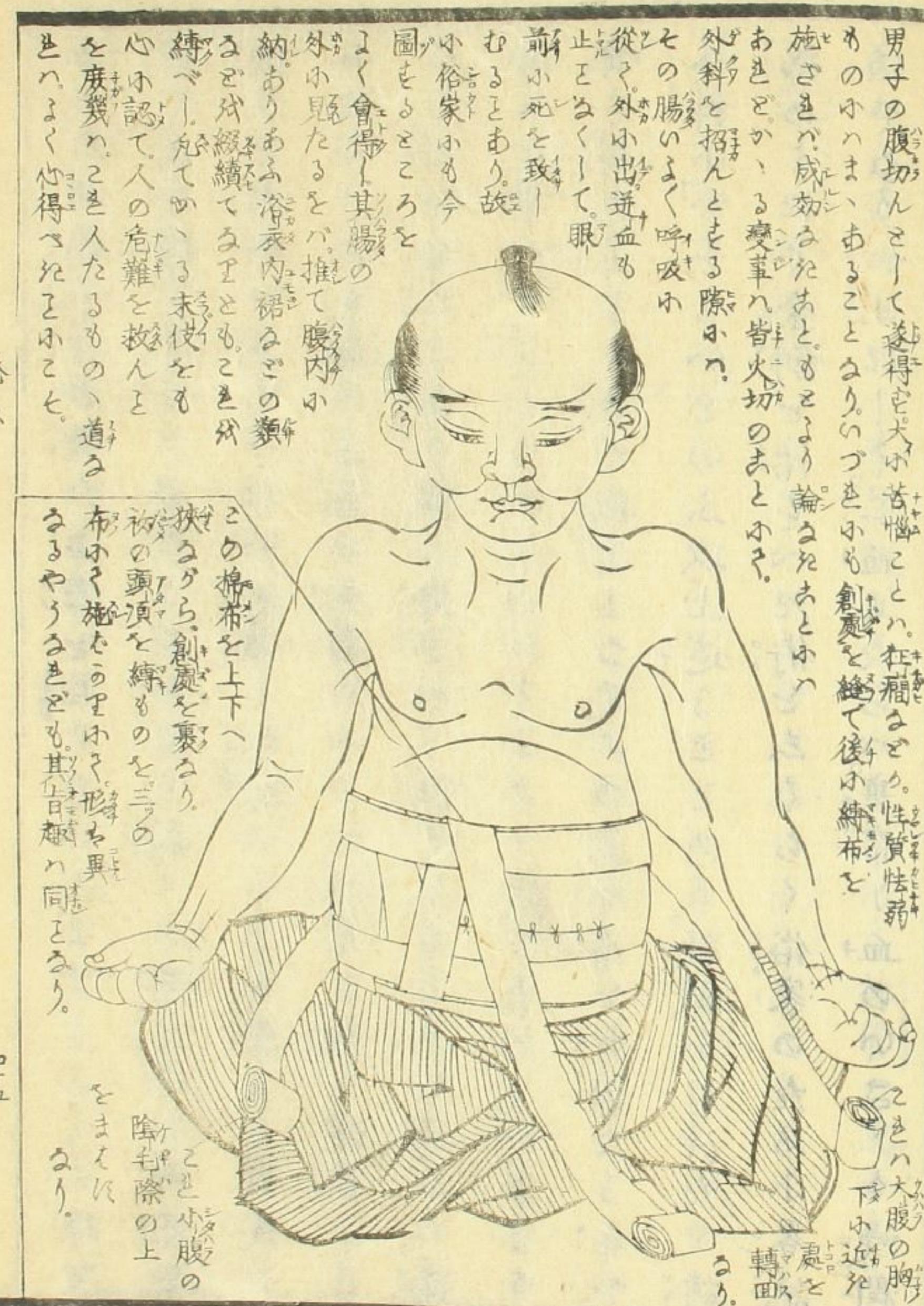
板の頭後より下尾戰小いたるを可とし。倉卒の間かへ

かゝる板をも得難とあり。人家小へ

ものや一のぬた竈廢のあげいたるど

れのづき小もあるものなれば。そひらと

取て。との巾席きへ製てことを用べたり。



あとあすとも駭て妄に解ことさうを。そへ脉管の愈合あと  
も纏二三時の間小あるとのなせば。血の流出あとみたものも。  
紮縛たるまゝ展視あとみたを可ども。やゑ小創處よく相合て。  
痛も軽なり血も止たらんに再び縛り診さるあとも。その  
堅の巧拙小由て。大か酌用あるべたあとより。また金創の血の  
纏絲の如小よりこそ逆出るも。動脈を切斷たるなせば。迅速小過  
止させバ。血が多出て死ぬるより。それも創脣がよく相合ふも。  
やくもとのやう小なれば。切斷する動脈が再循環し後難みた  
とのれども。萬方とも相合ぬる。肉の翻て經脉が齧離。血が逆  
出で止ぬものも。鐵の火筋やうのものゝ頭圓大さ荅豆やども

方へ。おの鷄子白小蘸たる布を且く。その上よりましく木綿を  
摺て。水と醋を等分小合たる小打濕て。創上小壓定さて縛綿を  
施す。木綿を縛小へ。始終創脣の齧離ぬやうに。緊のらば緩ら  
ぬやう。木綿の無益小重疊ぬやうに。徐くと微も浮氣こと  
えく心を臍下小在く静小縛了べ。鷄子清をのりと得に。鷄  
卵の上下へ火筆やうのものにく小さな覆をあけ。一方より  
噴を。白先出ると。分て聽用る。おの鷄卵清を打濕たる布を。  
外科小かをざいといふ。以上述る己ころ。縫鍼を用ひた。縛  
綿のミニ。金創を治をべた術をあざらく俗家のため小畧記  
法で。如其に。其血止たらば。裏帘小血のいさゝう浸潤

ると通赤小焼。その逆血の管口をよく檢て。ちりくといふは  
ご小烙きる處。是も動脈の斷管を烙塞。のく為ざせば。い  
つはでも血が止ぬやゑ。小伎窮。その細絡へかくもるおとみ  
まゝ。手の腋下の肘の横文の邊までを探し見せば。手小應  
る動脈あり。脚の股の氣衝の邊より。脚へ下る動脈あり。それを  
檢え。その動脈上へ。あらあふ堵帝を多く重摺たる小々も。綿の  
棉布の類。小々も當て。その上より布小々緊縛。手足の梢へ輸  
とおろの脈動が遏止の急か。施治の間。くくくく止るおともあ  
す。其大なる動脈を烙閉んこくとも。ふくく功みたものなきを。  
その脉動を歇て。神速小洗て。創脣を相合せ。緊縛をるがよし。は

た。創を縫。とくも。さへて難とかへあらば。衣服破裂を補綴する  
やう。小皮と皮がよく相合やうにさへをせば。俗人小も縫る、  
とのゆす。然と施治をる外科の心の定があへきやゑ。小縫やう  
か齦齧て。愈たる瘢痕が凸凹小爲へ。大なる脣をもるおとみす。  
さきど。金創も外科の任と小て。慣習たる者小委任べれときど  
も。不幸かへく其人を得ば。或へ外墾の急小應ものみたとき。  
非業の死を遂る者もあらん。その大要と記たるまである。  
また。おへ小記得て益あること。石灰一品極細末。小へく止  
血小用。にいきる藥。小も勝て効あるものあり。鷄子清と攬  
て日小乾たると。再ホ小へく用。も益佳。志あるものへ。常小製

一蓄て人と救へ。予嘗て燼灰の血を止るあと。石灰小効ざる  
おと代發明。一くより。炭灰汁の俗小「あ」といふ物を用。金創  
を湔て試たる。大い小驗あり。常の燼灰を止血小用。小へ。結  
節小てよくふるひく用べ。も一然せざれば。灰の小塊炭末を  
びの交たるが。創中小入。害となるおとあせば。倉卒の間。小り  
細心小をべれと。炭灰を止血小用。るおと。予が發明と思  
一古昔の軍法書小載たるよし。或者の譚ともべ。其書を檢せ  
一に。その車へたり。モ一なり。また馬勃俗小ヤコマだけと呼。濕  
陰の地或も叢林の下。小生もの小々。藥舗小も之を鬻。輕創。小も。  
此物を裂く。創上小覆て布小て纏。血を止る。妙なる。愈

後卒小離脱がた。おとあせば。預よ。其用心あるべ。炭  
灰。石灰の類を撒て。後小馬勃小々。敷たる。どもまた可なり。  
閃挫小々骨節の脱臼たると直。小治術を施べ。慰方も貼藥も用  
る。小かよむじ。頃刻痛も止。不日小愈る。分ふきども。依違うち  
小腫起筋太。みる。おろ小至。正骨科小治を乞。故小意表。小日  
數を經。或も愈。も陰兩。おと小疼を知。或も故小復。難。小も至  
な。而。懲て骨筋の機關ら。ミ。臼を以て接屬たるもの。小々。そ  
が脱く。齶齶。煩。小さへ。是。自然。小かのき。引よせ。臼中  
小送入。その故小復。やう。小せる。が。正骨術の本旨。小。別小妙伎  
あるにあらば。必。方よ。接續。もの。思。おと。み。の。き。の。義。も。

骨節ち筋が繫束鞏固をのゐるを逆還小一たび支解臼脱て  
 轉戾と。その脱たるは、小筋ハ仍舊小繫鎖拘攣ゆ急小。正骨科  
 もたゞ其の筋をおみとより拽弛マ。順小機關の臼へ迎一むる  
 も筋が自己牽縮て故の如小復まゞのあとより。いづれの正骨  
 科も此車代秘訣小一々。姿小傳ぬことなきども。俗家小も己  
 を心解れべ。大小裨益をみることなきべ。予ハ専門小あら詠ご  
 も。その蘊奥を探得て自試たることどもと。今こゝに洩せるる  
 正いづれの部の門控也。この意を會得しぬきべ。速小治をべし。  
 矢をみぞて。ふと頬車骨の脱たるも。それを下より突上マ整頤  
 と一とも。いの小をもこも整ものがあらば。おきと療をるものた

だその逆戾ものを順道へ弛解

のそれと小々。其術も

その人小對マ。両手

の大指を口裏へさへ

入マ。牙關盡處を撙マ。

餘の四指代以マ下頬を

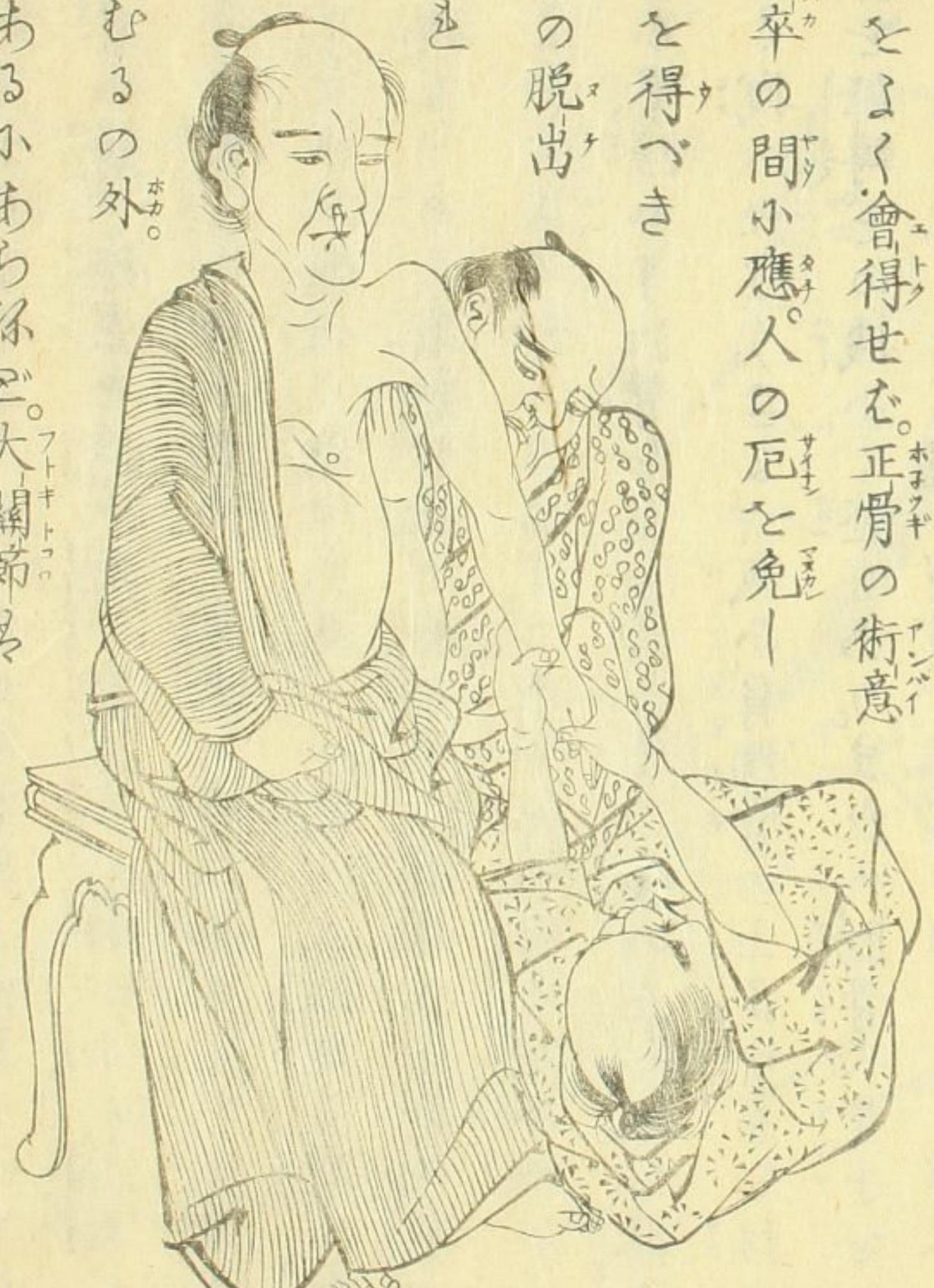
捧。ビコ一揃出を狀小

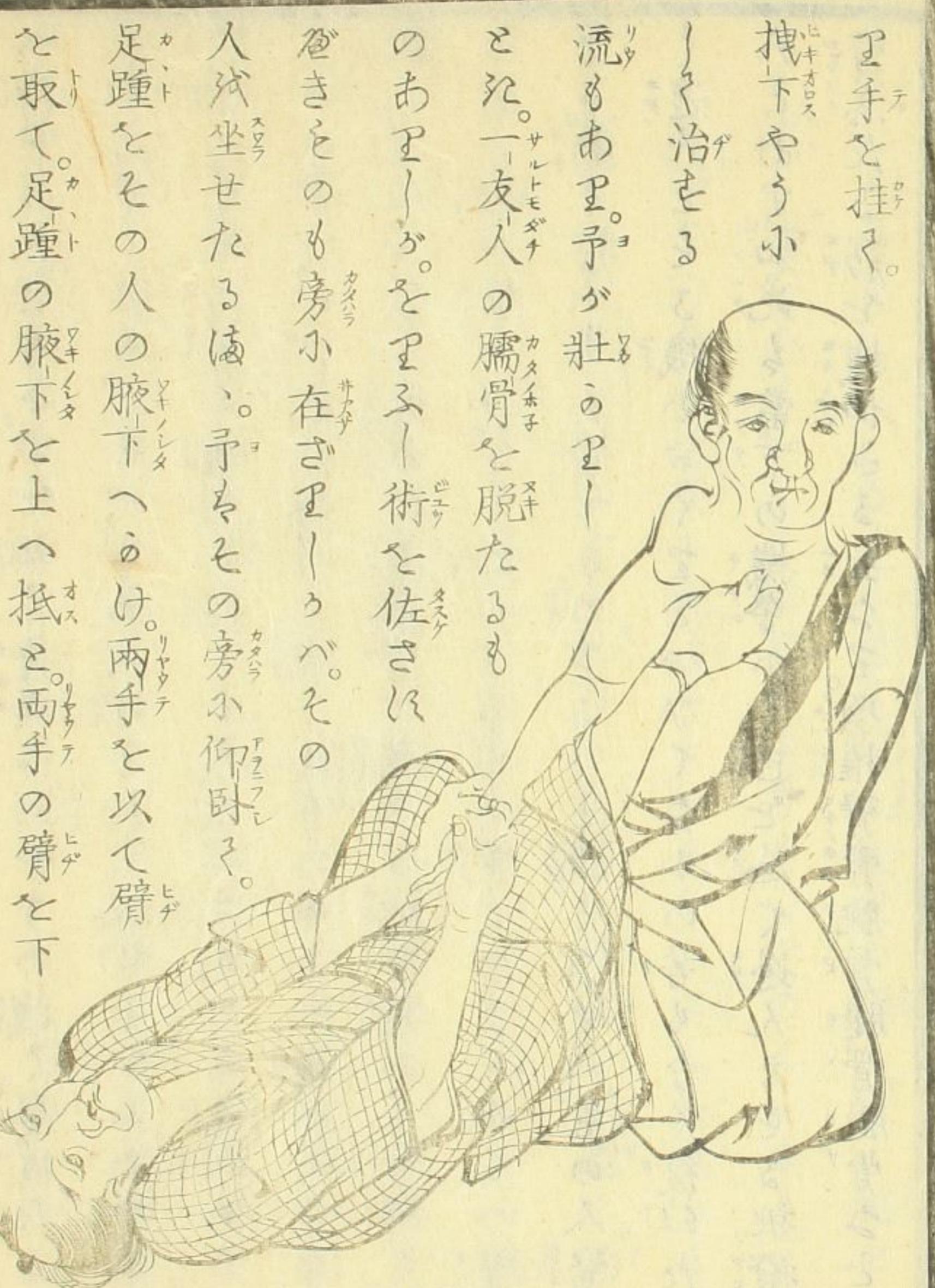
さ。口裏へさへ入たる  
指頭小々。牙關上より  
頬を強く下方喉頭へ向マ突下る



やう小をきむ。その機轉ハグニ小さけもよく納鈎カカルる。こき唯其寧タミノヒキ  
 急たる筋スヤと下へ向ムカシて拽ヒキ延ハシムとのこの術ハグニ。こゝとようへ拽出ヒキダツ  
 をと筋スヤも牽縮ヒキウツる機關カガシアヒをさへよく會得ガテキにハシムから。さて難ハラカレこと  
 もる。たゞ此術ハグニを施ハシムから。その口裏チクシ小入たる大指スヨを嘴傷ヒヤマる、  
 ことのあきび。疾速頗ハヤクアハの方へ脱ハダクむの上アシマが爛熟ハラハラごとあり。故小俗ハジ  
 家ハセ小内ハセナ。初より指頭コビサキを楮帯カスミ小ハシムも布ヌメ小ハシムも纏ハツ裏ハシムたるが。たゞへ  
 嘴カマしても傷損ハガクシくハシム可ヨキり。故小この落架風ハリハケルを治ハサムる。そ  
 の腮アゴを手巾テヌク小て頭上アタマへ縛ハリて紙條ヨリと鼻中ハナホへ挿ハサミて嚏ハチせハシムるも。  
 滅アヨた。腮アゴをくハシムす枕マクラを高くタカ仰卧アラシナサせ。その旁カタマより不意フイ小枕マクラを  
 跛ハケうへハシムて治ハサムる等の俗傳ハジマツも。皆こきと前マハへ引ヒキよせて。がくり

といふ機轉ハグニ小ハシム。自整頸セシニカ一ハシムむるはぐの術ハグニあり。也々小俗家ハシム  
 も此機關カガシアヒをよく會得ハシムせむ。正骨ホモフギの術意アシハシ  
 を知ハシム。急卒ハハカの間ハヤシ小應ハシム人の厄サガを免ハシム  
 むることを得ハシムべき  
 より。臚骨カヒナの脱ハダク出ハシム  
 たるも。こき  
 を拽延ハシムて。  
 自然小任ハシム  
 そ整復ハシムむるの外ホトキトコロ。  
 別の奇伎ある小あらねど。大關節ハシム





正手を挂く。  
拽下やう小  
ノノ治する  
リヤ治する  
リヤ流もある。予が壯のアーリ  
アーリー。一友人の腰骨を脱たるも  
のアーリー。アーリー。アーリー。アーリー。  
人アーリー。アーリー。アーリー。アーリー。  
足踵をその人の腋下へおけ。両手と以て臂  
と取て。足踵の腋下を上へ抵す。両手の臂を下

そきだけの力を用ひ小あら称べ。拽のバをあと能む。これと復  
を小ち。患者の腋下極泉の邊へ頭中無名三指頭を並々抵兼て。  
さく人をして席上小仰小卧せ。患者の臂に両手をかけ。患者  
の身に添え。下方へ勤住て拽とれ。腋下小抵たる指頭を定て動  
べ。下へ強拽る、とも。肩鶏骨微も搖ぬやうかると。その重力  
の機小く受けもろくか、るま。これを仰小卧て。下小拽小へ。  
患者の臂小墜挂やうに臂をもちたるまゝ。疊の上へ軀を落す  
やう小く拽べれなり。さる一派小。肩鶏骨の上より手を挂て。  
患者の肘を翻轉。その機小く整もあり。またハ。肋骨へ隻手をの  
け。隻手小て拽ものをあり。或ち腋下を指頭小持て。その肩上よ

へ持とのととも小力。力を極く差異なうやう小拽く。整復たるこ  
ともあリ一あり。されば。己也或可。それと不可といふ小へあら  
ば。皆人ぐの工夫。燐熟。小從と小々。凡く施て。ころ區別あるや  
うも。いづきの極旨も。拽く延きの外小へ出ぬものあり。  
故小。或者がさる怪人の肩鶴骨の脱たる肘を條小で繫縛て。七  
の端と柱小繫つけ。さく諭やうも。この骨このまゝ。小てハ整復  
まト。断く接べーと言下。小刀をるりと脱もみせべ。その人驚駭  
く遁んこむる機。かぶくすといひてみ小の苦もなく復臼たる  
おとあす。如此も當下の機警小く。已と急て逃んこむる挑撥小。  
寧急たる筋を拽伸くる故。正項推臂骨腕骨腿骨膝骨なども

其伎小大異あることより。手掌足趾及指骨の類も。たゞ極て  
ろも。拽く伸もふとよく心契て。便串をうすのことより。との  
く小脱臼やいふや。迅疾小施治をるを良。必く忌意。傳  
藥を垂らす。殊酒糊など小和たる貼藥。腰理と閉塞て。治を  
ること遲延。大小妨害。であるものなり。さへいへと。あゝ。術も  
歴事と可。ことをる。近里小巧手の正骨科。あらば。そと小委  
ミ治代受べたこと。みども。その復臼も。自然小從べたも  
のみ。世の正骨科。小委たる。速小復臼たるもの。が或數十日  
を過て。始く復故べきから。あらねど。己も彼黨。小於く。生計小便  
よたやうの機利あること。能知。詭る。こと。みのるべし。此

編二も。僻境カタヰカ行旅ガラガラと。倉卒サツの用マ小備アセんためか。その大意シテ述ケる波  
ぐみきども。該ヨリ小も。うま兵法ビヤハ大創オホナメのとミおこゝいふ。临長オソレみた  
小一コトヒもあらば。されど。かくふく風枝エホジを鳴アラさぬ聖世セイセイ小一コトヒあせど。  
士家ブケ小生ミニも。軍術グンジツの修學コロガを第一ガイ。小嗜コトヒべきことあるが、のの卒  
小兵イチイを分タクて。險地ゼラレ小赴オモカこミうども。醫士イシまでをも從シゆくことも  
まらば。とト中途トナカに。不慮フリヨの撫撲損傷ウナミケガみスあリ。要タマたる精手  
の事モノに處シがたれシあリ。小一コトヒもあらば。七色シナギのためかも。正  
骨金創キリキバみスの事モノ。士人ブケ小學ナラヒエ得シせマ。必裨益カヌキあるべシこと  
又アリ。思スる。拳法ヤワラ小骨ホコを挫スキた筋スギを脱ハタはた復カムことを教モロる者モ  
ありとク聽キべ。正骨ホコのことハ。七色シナギの拳家ヤワラ小裁コハロ酌スあるべケれ

び。正骨科ホコフギの不副急アニアハス。とシも。把勢ヤワラ小精者エコトナキを請ヨビて。參謀サムライそヘい。う  
あらん。かの土郎中ドウランヂウの類ルキも。招ムヤ無益ムヤシなるのえミラば。却カツて。礙害  
小みコトヒことニ。小一コトヒもあらねば。こミは。用心コロエべシことニ。又アリ。  
又アリ。撫撲ウナミ閃挫シダキ。小て氣絶エゼフする人アリ。肩井タナカタを撫モム。と。背上セナカを打ウタ。面部  
へ水ミズを噴アゲりくる。頭頂アタマより沃アキくる等カタに。甦キハシをのる。正  
骨ホコのとシ。氣絶エゼフするも。同オカシことニ。とベて。七色シナギのことも。前の  
卒病篇カツビョウバン小記シヒたるを看ヒルて。知シべ。正骨ホコのこと。此コト。唯其大畧アマラと  
示シズまでにて。詳ハサキことニ。専門センモンの人アヒト小問コトヒがよシ。又アリ。關節コレの脱臼スコたる  
小コトヒあらアリ。たゞ打瘻ウナミ小コトヒ。皮肉ヒニク紫色ムラサキ。小コトヒりたるも。その處トコの血ク  
が凝滯コリタマリたるるシカ。剃刀カミソリの陶器セトの碎カナヘ。小てその皮カヒを多く擦破カキヤブて。

血ナを漏ルたるがよし。或モち熱アツ醋シロハズ小サく慰スルたるあとへ樟腦シラカバノ或モ龍腦リョウカブの類ナ成ル火酒セキナガ小サく融解トガシたると貯マケたるもよし。世間セケン小酒母サケヌタスみど小て調和トガシたる劑スルを貼マケ或モ熱アツ饅子ナに其上アゲハシ温ムカヒるみどへ可シうらぬことより。葱白ネギハ小鹽シロソを加メて擣クたるを鍋フタ小サく温ムカヒめ布ヌイ小サく裏ミて慰スルみどナの類ナ可シけ也ル。乾カキて固カチる貯藥トグダクも先マサニへ用スルがよし。いづれル小サも如シ此者カタチへ輕下カキ劑スルを用スルが微利ヨシカサギたるが可シ。擣揀クシタツ甚ハシナ一け色スル骨ホコリの折クルことあるものあり。胸アキ脇ワキ骨ホコリ破傷ハラハラて患心肺ハラハラ及ムる。頭アシマ顱ホコリ骨ホコリ碎クルて脳蓋ハナタナと損傷ハラハラ。腸胃ハラタナ外スル小サ出スルやナの損傷ハラハラ。腰ハラハラ骨ホコリ横ヨコ骨ホコリみナの碎クルたる者の類ナ必死ルの證シテとそれナども。かやく折クルやナをナものへ。手アキ臂ワキ骨ホコリ足アキ脛ワキ骨ホコリも。そせらへ迅ハヤく痛苦クソウを忍コロ

素モトの如ホリ小復接ナホシ。又ナにてもあすあふ膏油アラカバの痔疾シテみナ用スル。又ナ効ヒあるものを塗スル。單布モイエン小サく纏マツキたる後ナシ黃蘖皮アソキを熱湯アツヨウ小サく浸マサヒ。柔軟モリかなナたるを以マサニ。四方ヨリ挾マサニ。その上アゲハシ小サく布ヌイにてよく纏裹シラカルべ。蘖皮アソキあたさき小サハ。杉皮マツスギまたも革ヤマハ板ヤマハさくへ竹片タケベラの斬カキたるナども可シ。蘖皮アソキの尤タタキ可シ。湯アツ小サく浸マサヒ。柔軟モリかなナたるが。再乾マサキて堅強カタクみナべ。凸凹カクタク高下タカシマ纏絡マツクたる皮肉ヒニクのま、小サみナきをみナり。黃蘖アソキも何ナの藥舗ヤクブ小サもあるものナ。貪得トヘン用スルべ。いナうねる折傷シラガク小サく骨碎筋斷カツクたマとも。其患藏府シラガクブ小サ及バば。抗拒コジクぬやう小サ接マサニたる骨ホコリ。復スルぬを決マサニくことナ。たゞいナのナも神速スミヤカなると第一ダことをナべ。今ト説スルてこうの意旨シロヒを以マサニ。患者苦痛シラガク

をるとも顧べ。定心小との折傷たる骨を。そのは故小復し。木綿かても何ふくを。在小任マモリ裏くるがよ。骨を折るといへを。大故やうなきども。磁器などの摧碎たるやうなる意小み也。ば。さて困難とあらば。古人も心も菩薩のごとく。手ハ創子のやうにせよ。いふ。浮氣の勇ちひ。るごとの用からたちがきこのみ也。たゞ仁慈の念より真勇を發して。其變小應ぜよ。この教誡も。况患者とも小狼狽ウロタエても。まく爲得べたと小あらば。おきらの術へ。唯其人の心の平不平小在べて。とぞ思ふ。農工商の別なく。是心ある小あらぬ。一切の事業成就難ガタらん。よく思惟べたとふこと。因ふいふ難だも。小兒を母の

乳房の下小壓殺たる也。燒灰の中小温ミヤマ治をベーでいへども。酒竈醸家。混堂。またも菽乳蒟蒻コシラユルウカニシビヨなど製造家。近重小ある小あらぬ。灰の燒アツマるものを。卒小饒多タクサハ得ハツぶたかるべし。芥坑ハキダの中ち。寒氣の頃カシキハ殊焼トコトコるものを。されば。時節小よすヨシモ。芥坑ハキダの中小よ温ミヤマ如何あらん。嘗て死レニる猫を芥坑ハキダへ捨たる。既生セイジいたることも聽べ。いの小とも爲ハスべた術アツくべ。かくアツても試アツべ。尤深モリく穿アツカて燒アツマる處ヨロへ没レシ。その上アツマも芥アツを覆カバて安オシべきなり。もし息絶トキナく時スコサを過ぬものも。肩井カタナカと揉モリ背部ナカを打水ウチを漫マツらくるなどの術アツにて。必効あるべし。前年予セシヨンが視シテたるものも。死レニ時刻ジゴクを過スコしたとみえて。通身微サブミも燒アツマるこあろ。いの

小も手と下を廻りやうなけ。空手小止一。いと懃動たり  
也。周歳の兒小乳を嚙一あらびら。其母若乳媪の睡を催。己  
が身を以て兒を壓殺。世間小ま、有ことある。暫愚意を記して。  
後の發明を待の。凡く我醫の術も。臨機應變を貴ぶ。故に。た  
ゞへ効驗成經たる。的當の治術なりと思。人をして。其蹤跡  
と倣一むべた。小もあらぬ。況此編ち。寒鄉邊土の醫小乏た  
き。あれの小補小もあきら。只俗家を諭んと。專小した。是  
べ。偶治術を論じるとある。簡易を旨とし。藥劑も捷徑を先小  
く。一切省略せること多。け。讀者。その心をべた。より。

病家須知卷之六終

